再撰

花洛名勝圖會

東山之部 七

イ13
528
7

東山名勝圖會卷之四

目録　四條以南之續

五條坂陶器店　若宮八幡宮　綾子内親王墓　法國寺

上行寺　俗中庵　本願寺御廟所　本堂　廟堂　拜堂　唐門　皎月池

通橋　景清姿見の井　延年寺辻子　牛谷　日親上人廟

龍谷山二十勝　高祖聖人茶毘所

日限地藏尊　鳥部山　後京極良經公碑　馬町

通妙寺　妙見堂　手鳴塔庵墓　見網爲墓　石田勘平墓　柴田鳩翁墓

継信忠信塔　三嶋明神社　小松谷正林寺　本堂　阿弥陀堂　開山堂　鐘楼　経蔵　方丈

庫裏　鎮守祠　燈籠堂舊跡　古波羅館古跡　專定寺　柳子地藏　庫裏

楼門

名物大佛餅　耳塚　大佛殿方廣寺　本尊　本堂　二王門　鐘堂　洪鐘　豊太閤墓

阿弥陀峯　豊國神廟古趾　妙法院宮　新日吉社　本社　神樂殿　復古社

塗燒竈　拜殿　末社

蓮華王院　一乘山智積院　本堂　祖師堂　開山堂　阿弥陀堂　方丈　林泉　法住寺古蹟

三十三間堂　夜啼水　摩尼社　勸學院　學寮　養源院　本尊　大日堂

矢數之話

天正十五年二月　花房仙次郎氏寄贈

門 4 13 528 神 巻 7

元三大師堂　歓喜天堂　山王社
稲荷社　天神社
延仁寺舊跡　池田
新熊野神社　本社　拝殿　速玉社　結神社　十二所　権現社
劍宮　滝上辯天祠　辯才天社　霊府祠　地主権現祠　鐘堂　石鳥居
洛橋
佛殿　泉涌水　釋迦堂　鉄守社　常盤宅地　東山泉涌寺
経蔵　舎利殿　開山堂　御位牌殿　観音堂　鐘堂　谷室　宮庫
将軍塚　雲龍院　四條院宸影殿　雪見灯石燈籠　塔
安樂光院　観音寺　東近院　後堀川院陵
新善光寺　永圓寺　善能寺　戒光寺
羅刹谷　伏見街道　悲田寺　保安寺
檜馬舎　神輿舎　一之橋　滝尾社　本社　拝殿
赤社　楓樹
三聖寺　佛殿　愛染堂　五葉辻　朱雀院御奚所　千本梅茶店
恵日山東福寺　佛殿　泉煙滝　中門　萬壽寺　五大堂
鐘楼　法堂　開山塔　選仏場　蔵経堂　東司　法堂　方丈　庫裏　十三重石塔
稲荷社　通天橋　即雲橋　傳衣閣　方丈　寶庫
偃月橋　兆殿司画涅槃像大幅

月輪　光明峯寺跡　南明院　後成御塔　自然石土墓　同母浄如尼塔
二之橋　三之橋　法性寺四跡　藥師堂
法性寺観音　慶帝陵　阪本社　遣迎院　安倍晴明塚　独鈷水
毘沙門堂　神輿殿　愛染堂　辯才天社　愛染寺　伊勢丙宮　熊野社　六座　楼門　荷田社　大鳥居　文殊堂　白狐社　神楽殿　拝殿　稲荷神社　本社　若宮
田中社　御伝殿　聖天堂　宝庫　御倉上之社　大黒堂　長者社　北鳥居　滝尾社　稲荷坂　還坂　稲荷滝　独鈷水　稲荷山　大師堂　馬舎　初午詣
榎橋　荷田東麻呂家　学校造立上表文　伏拝　影向松　弘法池　四大神故趾　独鈷石　三ケ峯

冷泉権大納言爲村卿書

東山の花又後わらるる
家法とはおらすわと人
のゆ後わられを　忠房

家法と言もまこはむ
やまきこちちわるかへる
ちこひちられを

五條坂陶器店　五條橋通を今の清水辺より坂路を上る右の坂路を五條坂と呼ふ味ふ建仁寺町の東ふ至る人家両側陶器を鬻く者十ふ七八ありこれ

因ふ云洛東粟田焼い寛永の初年尾州瀬戸より来りて其業を弘め坂五條坂また清水坂い御菩提焼の流仁清の風ふ起出るや仁清ハ北村氏ゆ陶器の名工なり金森宗和侯同時の人と云ふ　もしくハ洛西仁和寺御室の傍ふ住く晩年爰ふ移住せしと云ふその事蹟今詳ならず近年高橋道八後仁阿と称ス尾形周平等の巧手競出深附金蘭手青磁の類唐山南蛮の古製ふ劣らず次ハ六兵衛亀亭與三兵衛蔵六清風乾亭の輩益新奇を工風ス　江戸大坂を始め諸國ふ送り奠茶家の称誉を得るも又我洛東の聲價を増の一ツなり

若宮八幡宮　五條橋通の東北側ふあり本願寺建立の時今の地ふ遷す　若宮洛洛の佑ゆ牛通ふ有り　社領七拾三石八斗余

本社　八幡太神　祭所　應神天皇　玉依姫　神功皇后

當社ハ廿二社註式曰人皇七十代後冷泉院御宇天喜元年

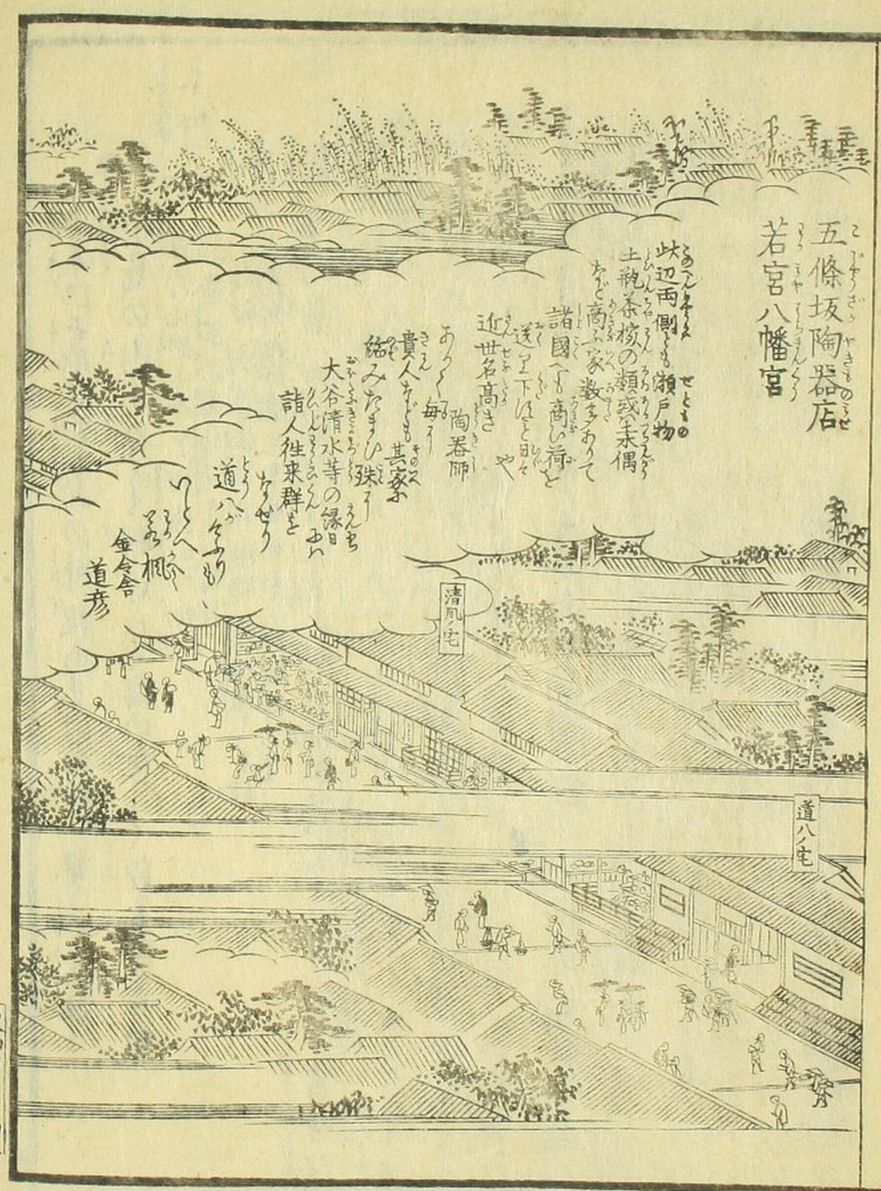
敕願ふ依く伊豫守源頼義朝臣勧請あり所ち其後慶長

年中今の地に遷り往昔源頼義奥州貞任宗任征伐の時
多く人民を殺すによりて其追善の為堂を建て恵心僧都作の
弥陀を本尊とし此堂今亡く本尊他に移りて今の本社ハ
美應三年後水尾院の勅命によりて御造営あるべきなり
東鑑曰文治元年十二月廿日令拝領諸国地頭職給之内以土佐国吾河郡令寄
附六條若宮給彼宮黙故廷尉禅室六條御遺跡被奉勧請石清水以廣元
第秀厳阿闍梨所被補別當職也云云
緩子内親王墓 山城志云當社域内に在り良隅の一町五反歟 日本後紀云天長三年六月緩子内
親王薨太上天皇皇女也丙午葬山城國愛宕郡愛宕寺以南山

法國寺 同所にあり宗旨ハ時宗開基覚阿上人相州藤沢道場の末流なり
遊行上人三十五世なり姫路豊国寺後法国寺に改む
本尊 阿弥陀佛 立像二尺余 安阿弥作
當寺本堂ハ大佛殿建立の餘材を以て立る所なるなり 書院ハ新
上東門院の殿舎を御寄附なりと
傳云初豊臣秀次公帰依有て覚阿上人を対面し即坐中に狂哥を詠ず

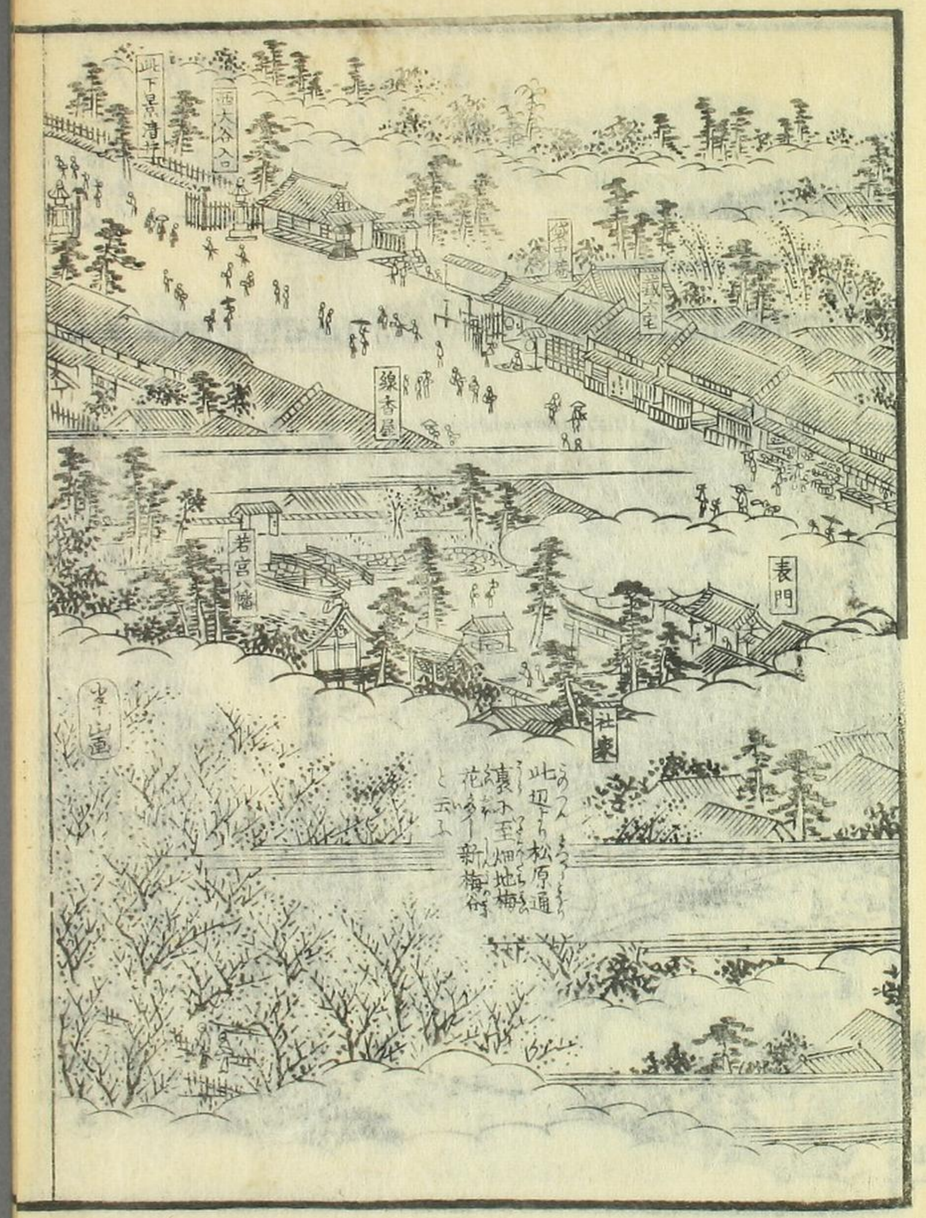
上人の袂の袈裟の珠数おもかけ忘れぬ
迎
水鳥の水に入るもあはれなり海の魚にも沒るまじや

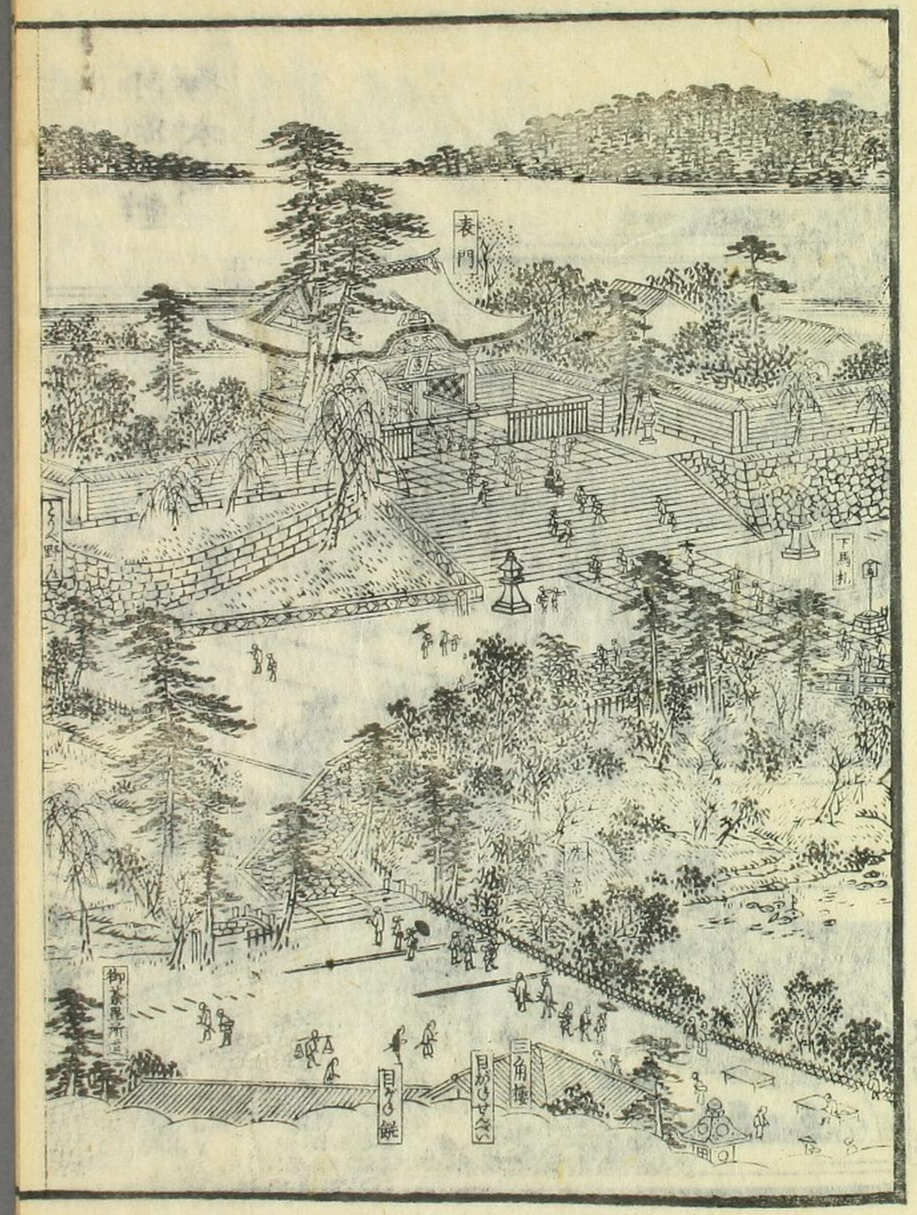
上行寺 同所北側にあり法山中号 法華宗洛陽妙満寺に属す 開山蓮祖像と安置
本堂 南向 本尊法華首題 其他祖師堂三十番神社 鐘楼等あり
當寺開基ハ境智院日秀上人なり世に聞こえたる常樂院
日經上人の開地なるべし 日經も此地に住居し他宗法論となり慶長十四年二月
其後弟子六條河原に於て剣刑に行なる故に俗に剣寺と呼ぶ 秀師も不愛身命の僧なりしかへ
ば度々の法難を通り慶長十六年織田左京助信定の本願に
よりて堂舎を建立し元和元年十一月後水尾院の編旨を賜ひ
宗風益繁昌し洛外所々に題目の石卒塔婆を建る秀師の發
意なり末流の門俗今尚是を巡拝し御塔巡りとなすべし
佛中庵 同所南側にあり 摂州王院佛中上人隠棲の地なり 初東山菊澗にあり
其後大佛瓦屋に移り今此地に移る 今女僧住職なり
本尊 阿弥陀佛 坐像三尺五寸 恵心僧都作 圓光大師 張子御影 坐像一尺余 熊谷蓮生作

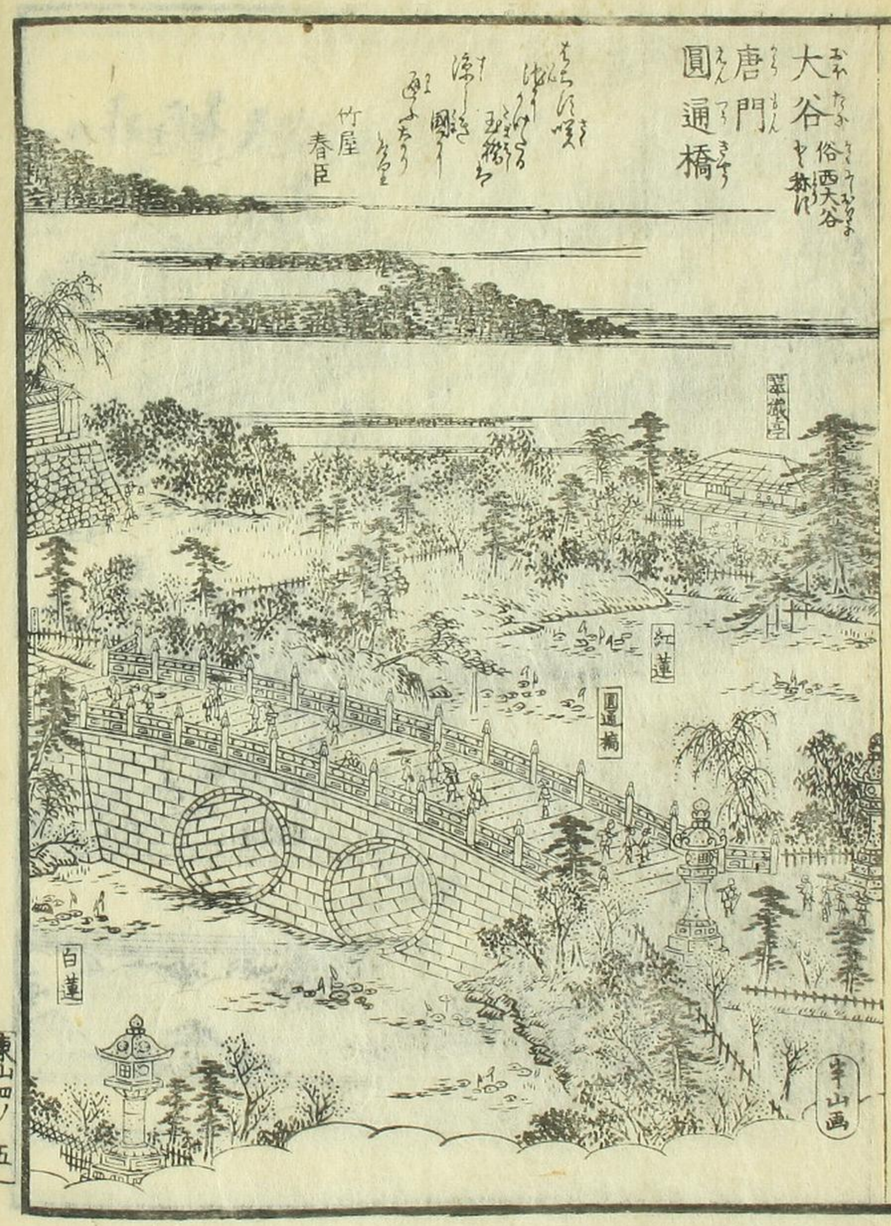


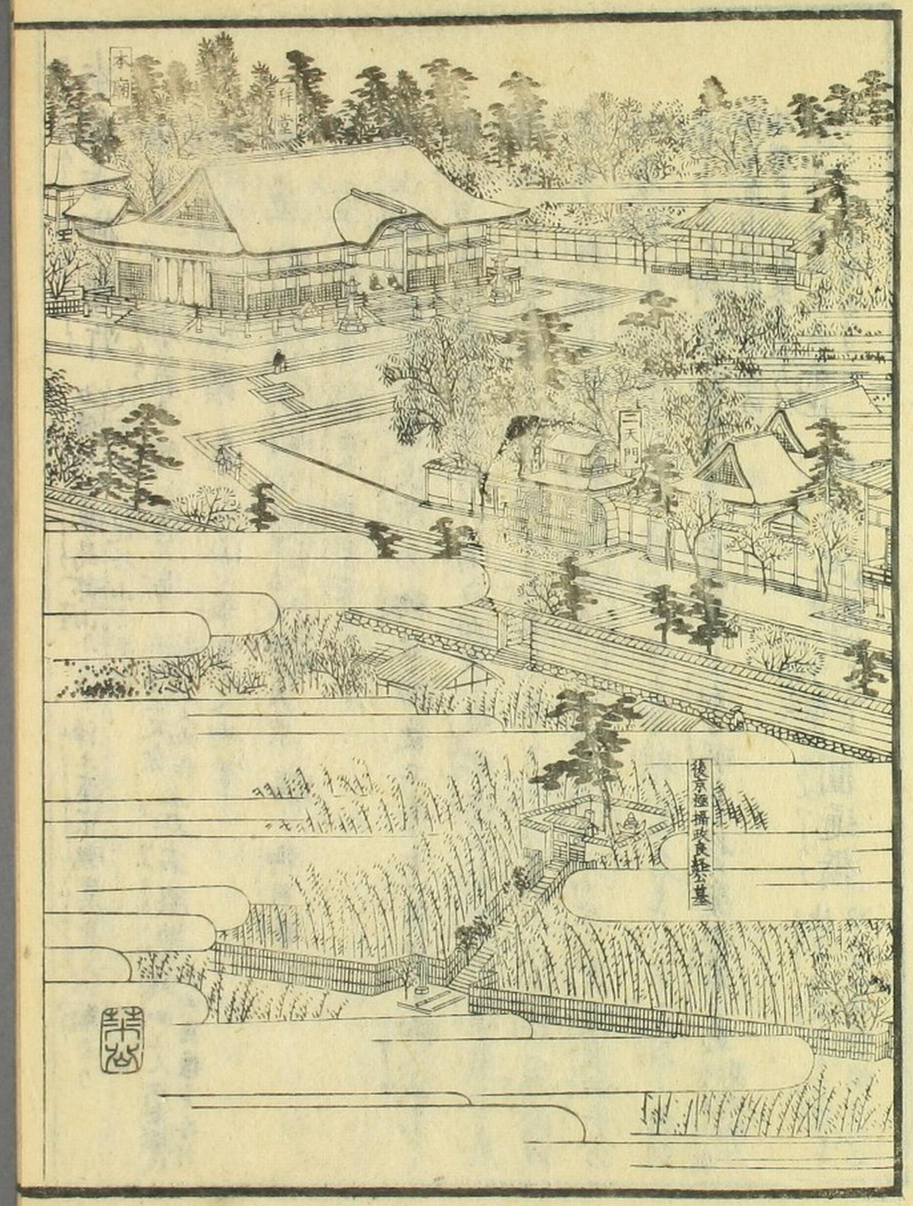
五條坂陶器店
若宮八幡宮

此辺西側ハ瀬戸物
土瓶茶椀の類或ハ人偶
なと商ふ家数多ありて
諸国より商ひ荷と
送り下はと日々
近世名高き陶器師
あり〳〵毎〳〵
貴人なども其家を
偏みたまひ殊に
大谷清水寺の縁日
諸人往来群を
道八ハ
楓人
金令舎
道彦




表門
下馬札
御茶屋所
目がね鍋
三角楼


大谷 俗西大谷
唐門
圓通橋
竹屋春臣
紅蓮
圓通橋
白蓮
東山画



其二
阿弥陀堂
御本廟

本願寺御廟所　五條坂の東鳥部山ふもとに浄土真宗親鸞聖人の廟なり

本堂　西向　本尊　阿弥陀佛　左像二尺余　寂如上人御作　左右脇檀　顕如上人以来歴代の御再像を安し

南北の除間七祖聖徳太子を安し　額　竜谷山　寂如上人御筆

廟堂　本堂の東の上ふ有て左右石垣の内ふ　額　御同筆

顕如上人以来御代々の墓を列し

拜堂　額　著明堂　御同筆

開山親鸞聖人ハ亀山院の御宇弘長二年十一月廿八日御入滅し

東山の西北蘇鳥邉野の南の邉に延仁寺ふ火葬し遺骨を鳥

部野の北大谷ふ納し斯て文永九年の冬吉水の北大谷ふ佛閣成

建立し影像を安し奉る此尊像ハ今六條本願寺の御堂ふ安し世ふ骨肉の御真影と称す其後准如上人の

時慶長八年台命ふ依て当山ふ移さる猶舊名を呼て大谷と称し

委しくハ御傳記あり世ふ普く知る所なれハ爰ふ畧す　聖人御廟墓の跡今知恩院山内崇泰院の後園ふあり前条ふ出たり

唐門　西向　左右築地　石階あり

皎月池　唐門下檀の蓮池なり　圓通橋　池上ふ渡る石橋なり又此橋ハ獄舎の形ふ

似たれハ俗ふ目ふ橋　景清姿見の井　皎月池の西南ふあり悪七兵衛景清獄舎ふあり時我が姿を移したる

称す石工下を盡し　土中ふ埋て有し

近年開道の時掘出す所なり

そもそも當山の境地たるや漠々たる庭上ふ老樹翁樹ふ

廟堂拜堂彩飾を施さる巍然たる弗殿其外寺殿

廳事　大厨接待鐘楼鼓閣列立せり須臾開造成

唐門の前面なる谷を填め池を作て中央ふ奇巧を尽せり石橋

玉畳みなせる志のなり

られ柳ハ西湖の種なり池辺の櫻樹ハ芳野山より移し植

なり殊ふ夏日池中の芙容ハ翠蓋水を掩ひ清香欄を撲し馨

し傍の飛泉ハ音羽の流に似たり此唐門の檀上ふ登臨

ハ霞立春のなりめハ更なる雪の朝ふハ樹々の梢絶妙

眼下の市街瓦甍も白玉なるもあるかく

新ふ東山中ふ一勝景地の造成なるも當流の繁昌なるなり

昇平撫民の賜物や　門徒の緇素いつ[illegible]
[illegible]　此所ゝ誘[illegible]　都鄙の長幼袖を列ねて来
傍らの賣茶店ゝ甜ひく風景を賞する多し

龍谷山二十勝景詩歌

平安城瑞靄　巖墻龜

定鼎千餘歳炊煙十萬家凝成一片靄長養東山花　大喜多巖

覺王殿紅梅

海棠羞艶色紅杏讓清香手觸嫌將汚隨開獻覺王　水野直躬

錦繡塀垂櫻

[illegible]裁ぬ[illegible]の[illegible]花の香[illegible]

西湖塘春雨　生源寺希烈

淡烟鬟黛飛橋聳細雨空濛垂楊昏疑似蘇堤三十里前頭恰有湧金門　貫名苞

音羽山啼鵑

叫風呼月聲凄切每夜雲林隔幾重啼處聞時無隙喝去來音羽最高峰　谷森種案

皎月池荷花

[illegible]

圓通橋晩涼　宿福寺雲叡

圓通橋上魁細細白蓮香真如波底月更涌自然涼　竹内享壽

弥陀峯秋月

秋[illegible]　渡里忠秋

聆琴崗蟲聲

[illegible]　進藤千尋

洗心瀑紅楓

[illegible]　村井忠臣

加茂河霧海

[illegible]川の[illegible]　香川景恒

賣茶店晨霜

[illegible]　牧輗

不釣坊寒松

放生魚可數寒松護磯頭但見梢間月夜來垂玉鉤　根村盈紀

愛宕嶺晴雪

[illegible]

明著堂清磬　高尚房超然

老樹圍原廟遺靈仍儼然一聲清磬響喚起有緣眠　監谷弘道

五條坂陶烟

秋巒如洗雨餘天一望眼明斜日邊歸鳥何緣忽無影晚風吹散幾窰烟　宮原龍

景清井照影

朝雲暮雨奈渠何恐我戰塵汚髮華好對寒光寫形看石泉一片是菱花　普賢寺雲崖

二天門古韻

鎮鑰二天護經營何代曾依稀存古色照出幾衰興　富嶋祐正

觀京磴二塔

五層遥對立湧出脫塵囂萬戸連甍外雲端二塔高　上善院澤證

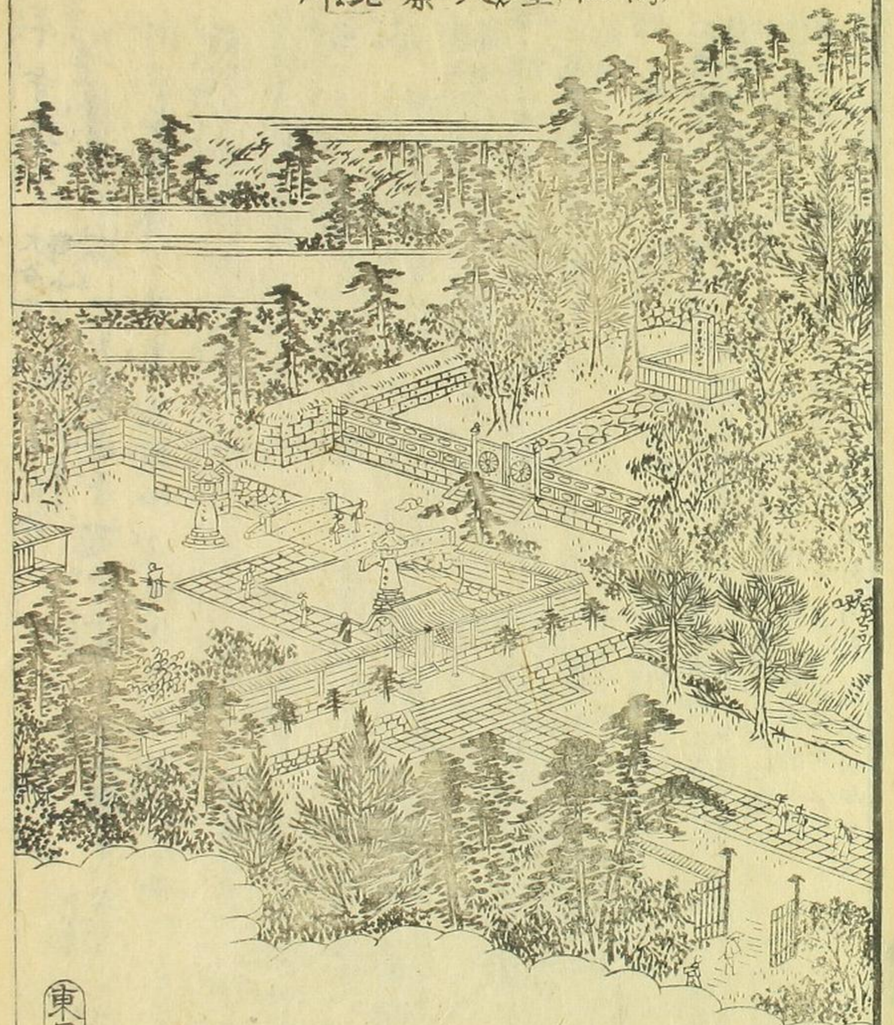
鶴林洞聖蹟

儼然鶴林洞高德路初開不變松杉緑衆人慕古來　園直令

高祖聖人茶毘所

大谷御廟所の地東小當る一里許松杉生茂りたる山間小堂あり古へより靈蹟存しなりと近年更小往詣有り中ち妹辺を迎年寺辻子や云ふ其の迎仁寺辻子を唱へ誤りたりと云ふ支濃州の僧紹の記したる冊子小あり

高祖聖人茶毘所



東居

延年寺辻子　大谷西の門下より鳥部野に出る路なり

盛衰記云山門の大衆追手搦手二手に分る搦手は大関小関四宮河原を打過て苦集滅道や清閑寺歌中山追責寄たり追手は西坂本下松尚道を打過て清水坂晴尾観音寺迫責つめたり坊舎に火をかけたるに折節西の風はげしく吹て黒烟東に覆て寺僧尚防戦ふかなく本尊を負坊舎を捨て延年寺赤築地二の閑道へ落行く云云

牢谷　大谷の南の谷をいふ名跡志云若宮八幡宮門前の南音羽川南人家後清水寺縁起に牢岸に作る傳云悪七兵衛景清と禁獄舎あり〻〻や此辺也

日限地蔵尊　延年寺辻子の北側にあり安祥院と号す宗旨は天台真言禅浄土四宗を兼る知恩院に属す開基木食正禅養阿上人本尊阿弥陀佛本堂の傍に地蔵堂あり世に日限の地蔵尊と称す霊験あらたなる故に寺号を称せず唯日限地蔵と云ふ諸病の祈願を掛け詣人絶ふ絶ることなし

鳥部山　大谷廟の東を限り鳥部山と名勝志云顕昭拾遺抄に鳥部山阿弥陀峯は此より遠峯なり其北を鳥部野と云ふ無常所なり〻〻阿弥陀峯は此より遠の東に中間に番谷大路を隔て今鳥部野郎山なり今鳥部山本願寺要法寺妙傳寺本法寺声影堂等の墓所なり当山古老の説に慶長の始に至て此所に火葬所ありと云ふ鳥部野郎山は今の東福寺の地其所に接して今要法寺の墓所并に妙傳寺末通妙寺の地其所辺を打て今も往々古墓を掘出す〻〻鳥部野は其北の辺に日限地蔵の南此所に掘出す〻〻の河弥陀峯のもとなり南鳥部野と云南鳥部里称鳥部者秦公伊呂具の餅北鳥辺飛騨

其所に林今鳥部元云云南鳥部

拾遺愚草　鳥部山むかしき跡は数々にかくの人そ稀なる　定家

玉吟集　まの墓もやの草も鳥部山はかの烟なりけり　家隆

鳥部山　鳥部山もえしけむりの跡なれや　長嘯子

鳥部山　鳥部山もえしけむりの跡なれや　景樹

蒋つむ　蒋つむ人の袖の雨なれや　長儀

蒋つむ　蒋つむ人の袖の雨なれや　孟遠

蒋つむ　蒋つむ人の袖の雨なれや　鶯笠

後京極良経公碑

大谷の北東鳥部山要法寺の墓所にあり往昔は九重の塔なり又云播磨公頼全の塚なり頼全は建仁三年七月十六日於延年寺誅戮せらる東鑑に見たり碑傍に標石あり後京極摂政良経公之墓と彫り松下鳥石華銘云

藤原良経公之墓在于洛東要法寺而歳月悠邈荊榛荒涼不可復識也享保年中並河生奉　大樹晃命脩甃内志時斲木以表而今也朽矣明和二年春鳥石葛辰翁偶遊此地

嘆其蕪穢且悲蟋蟀之吟乃誅榛芟荊脩治墳墓新立標石
祭以香醪旦賦詩藏于其寺住寺日慈感翁之志請書其事
于於是識赤水藤原岳尚撰蒲野谷豊書

日親上人廟塔 日所の東本法寺の墓所ふあり

廟堂 南向四面回廊ふあり 又前面ふ拜所と構ふ 本堂 南向廟所の西北ふあり本尊法華首題牌 其他日親像堂 番神社 鐘堂 開山塔

茶所等皆備傍らふ

抑日親上人ハ不愛身命の大導師ゆゑ世ふ鍋冠日親上人と稱ず
其傳ハ洛陽本法寺の條ふ詳なり康正二年上人年五十ふして逆
修の石廟を洛東鳥部山ふ立て首題并法印日親等の文字ハ
其面ふ書すし其後長享二年九月十七日壽八十二ふて遷化有し
かハ此所ふて茶毘し逆修塔の下ふ納む然るふ中世兵乱ふ續き
盜賊洛辺ふ横行して諸伽藍佛像及び石塔まくも掠奪せらい
徒弟この御塚を平け石廟を埋し隱し其上ふ草木を植え終ふ
野原と荒して年を経しふ文禄の頃本法寺中興日通上人の

代ふ當て師此所を指し示忽ち親尊の骨舍利并廟塔を得
なとそれも又後世の地變を量て舍利ハ本寺の寶庫ふ
收む係る由縁を以て今猶其宗流の男女祈念偈仰する支怠
らい娼妓能優の輩まて此墓地ふ美々敷逆修塔を營む
現當二世の利益を求め異体同心の善縁を結ふ成る

通

妙寺 日所ふある宗旨ハ法華宗妙傳寺ふ属ず開基日惣上人 寛永年中草創ず 本尊法華首題牌

妙見堂 日所東ふある本尊妙見宮ふ安置通妙寺所ず近年追々ふ修造ず舞堂繪馬舍茶所休息所等備り霊應まる

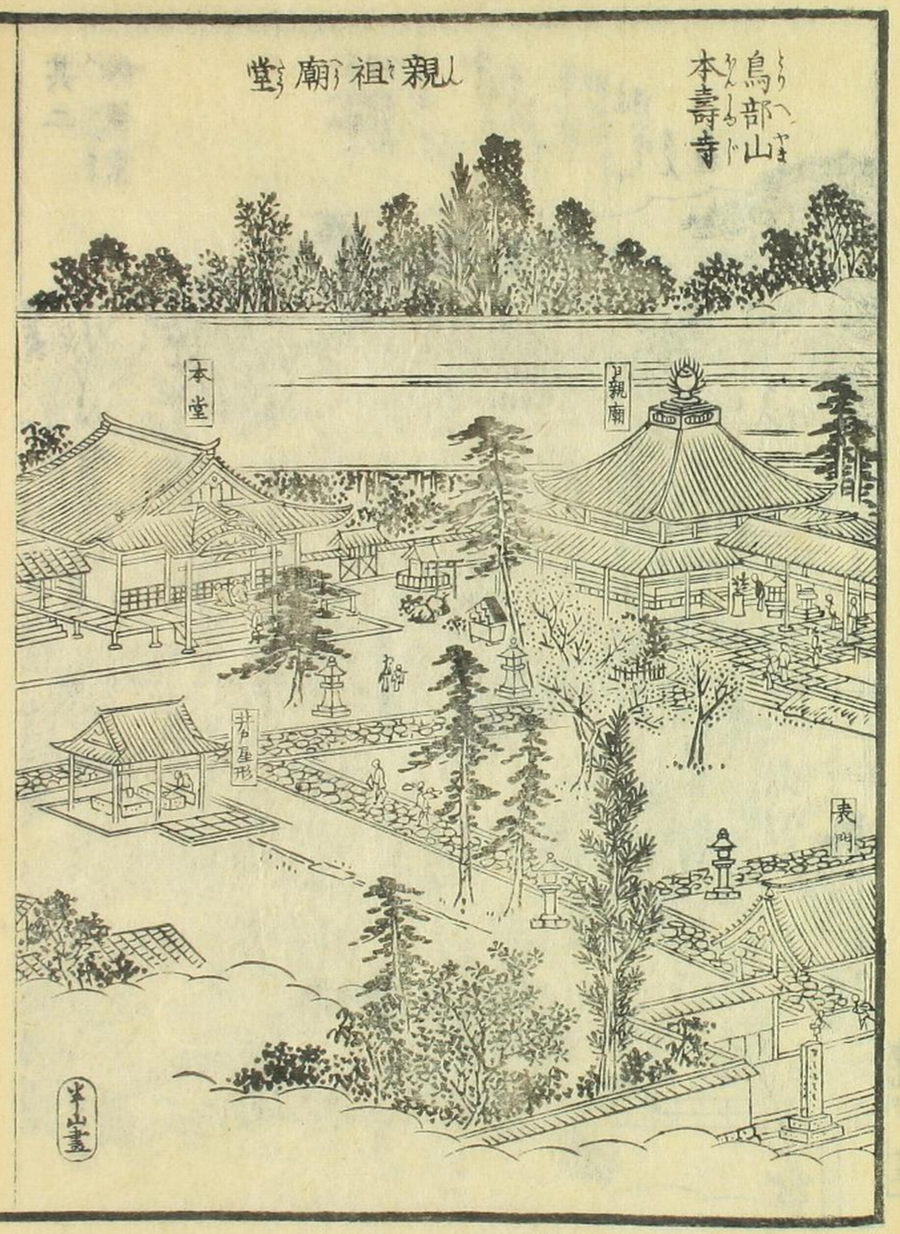
午の日の群參ハ平日詣人の閑散なる

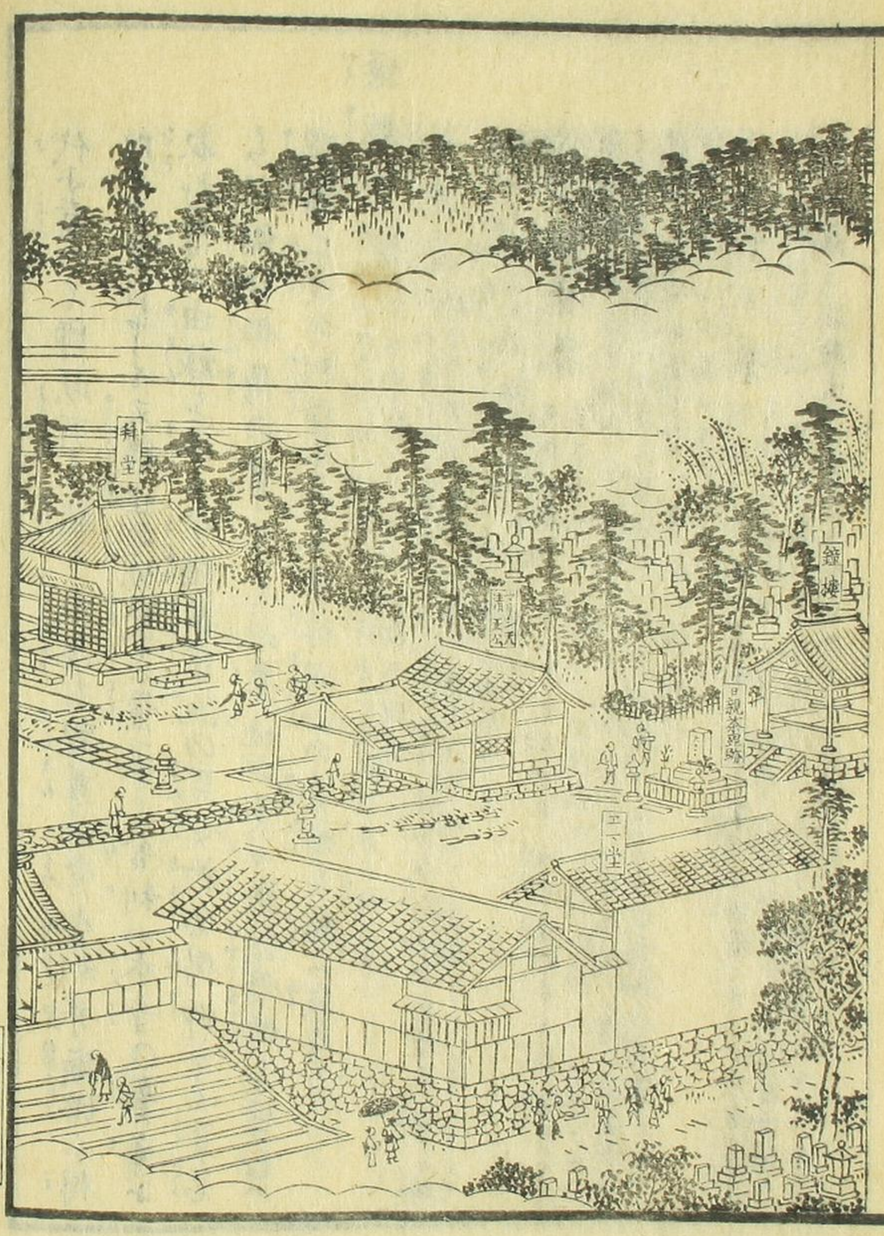
題目を唱る声潮水の音遠近ふ響ず

浅見細齋墓 鳥部山墓所ふある名ハ安正初名ハ順良通称重次郎細齋号ハ
望楠樓の号あり幼ふして考妣ふ仕へ孝あり壯年長剣を帶ふ其鋒方寸
赤心報国の四字を篆刻ふして一項事々ふして其厳毅の氣質ふ
儒業を山崎闇齋ふ受て後一家の見を起ず
正德元年十月朔日没ず年六十

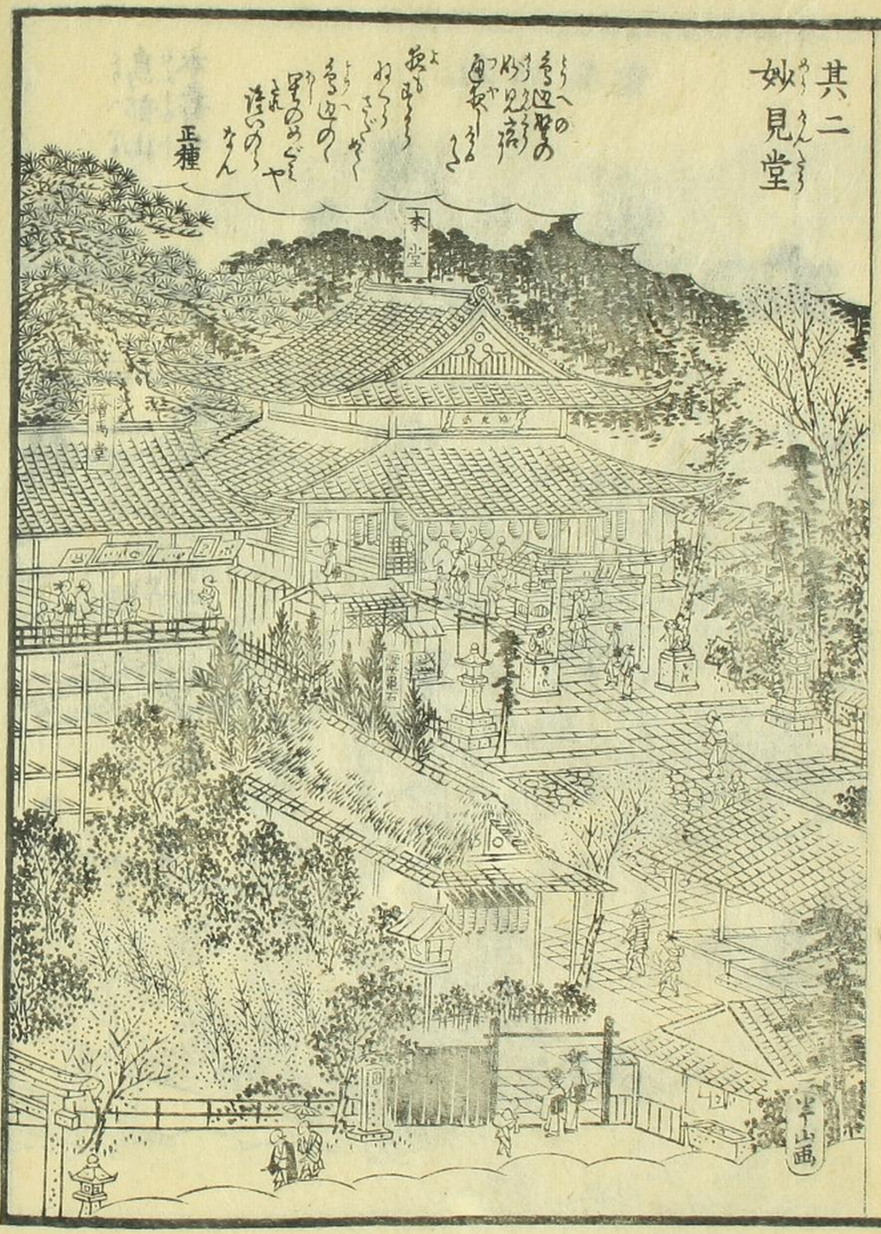
石田甚平墓 日所ふある人始め了雲者師ふ就て性理の学を研究ず父母没後京師ふ
出て心法の学を以て世俗を教化ず支懇切ず人々謹身篤行ふして世
石門ゆ称し其徒大ふ貴敬ず 延享甲子九月廿四日没ず年六十

石田名ハ良字ハ勘平又梅巖と号ず丹波栗田郡の


親祖廟堂
鳥部山本壽寺
本堂
親廟
表門
半山畫


鐘堂
三十三堂

其二
妙見堂



正種

手嶋堵菴墓 ハ所ハ平安の人姓ハ手嶋名ハ信一の名ハ喬房字ハ應元通称嘉右衛門始酒右衛門ヤ称ハ世々華頂山の麓ニ住ス後市中ニ出テ住ス石田梅巖ニ後ル〳〵学ブ考人装謙ハ〳〵節俗仁愛ナリ後事〳〵学ブ者頗る多シ後ち樂舎を立講席ヤ日夜教授ス天明六年二月九日歿ス年六十九

柴田鳩谷墓 ハ所ハ平安の人名ハ亨字ハ陽方通称謙蔵髪ハ鳥翁表ハ後事〳〵諸国ニ游歴〳〵心学道話ヲ講延聴衆頗る昌ナリ天保十年五月三日歿ス年五十七当墓地ハ甚徒の墓碑其他諸家の等多くあれとも畧之

馬町 妙法院の北の惣門前ヨリ厨子奥ニ至ル〳〵山科安朱村ヘ出る則東国道ナリ清谷街道ナリ清岡寺花山

継信忠信塔 馬甲の北側民家のうしろにあり

銘云 永仁三年二月二十日願主法西云云又一基ハ銘なし一説ニ石の大塔ニ基立ル

古昔此邊ニ等光寺やいにる寺あり其寺の寄附塔なるんや云

山城志云元在六條坊門松屋町大安寺寺廢移石于此ニ佐藤兄弟の支其證不詳 古老説云古墳辺の人家ニ東つゝ宿ル僧あり件の由縁を聞て塚ニ向ひて和哥を詠ス其夜五更ニ至つて頻ニ彼家の戸を敲あり誰ぞと問へ出合ふ甲冑を帯せる武者なり今明の返哥をんゝ身を捨てこそ名をつきのふ

三嶋明神社 大佛馬甲の北側ニあり大名の社なり 伊豆国加茂郡三嶋明神を勧請ス

本社 南向 祭神 大山祇神 木花開耶姫命 岩長姫命

拜殿 南向 鳥居 仝上 妙見祠 稲荷祠 天満宮 祇園社

猿田彦社等皆境内にあり

當社例祭は九月十六日なり安産を守るゆゑに衆人群参す

則當所の氏神にして産子は一代の間鰻魚を禁じて食ふ事なし

小松谷正林寺 馬町通の東南にあり宗旨は浄土宗 知恩院に属す開基恵空上人なり

本堂 南向 中央 圓光大師 月輪禅定兼実公の由縁を以て九條殿より寄附あり本堂なり故に殿舎作りなり

阿弥陀堂 本堂の南方にあり 弥陀仏を安し 開山堂 阿弥陀堂の前にあり 開山恵空上人の像を安し

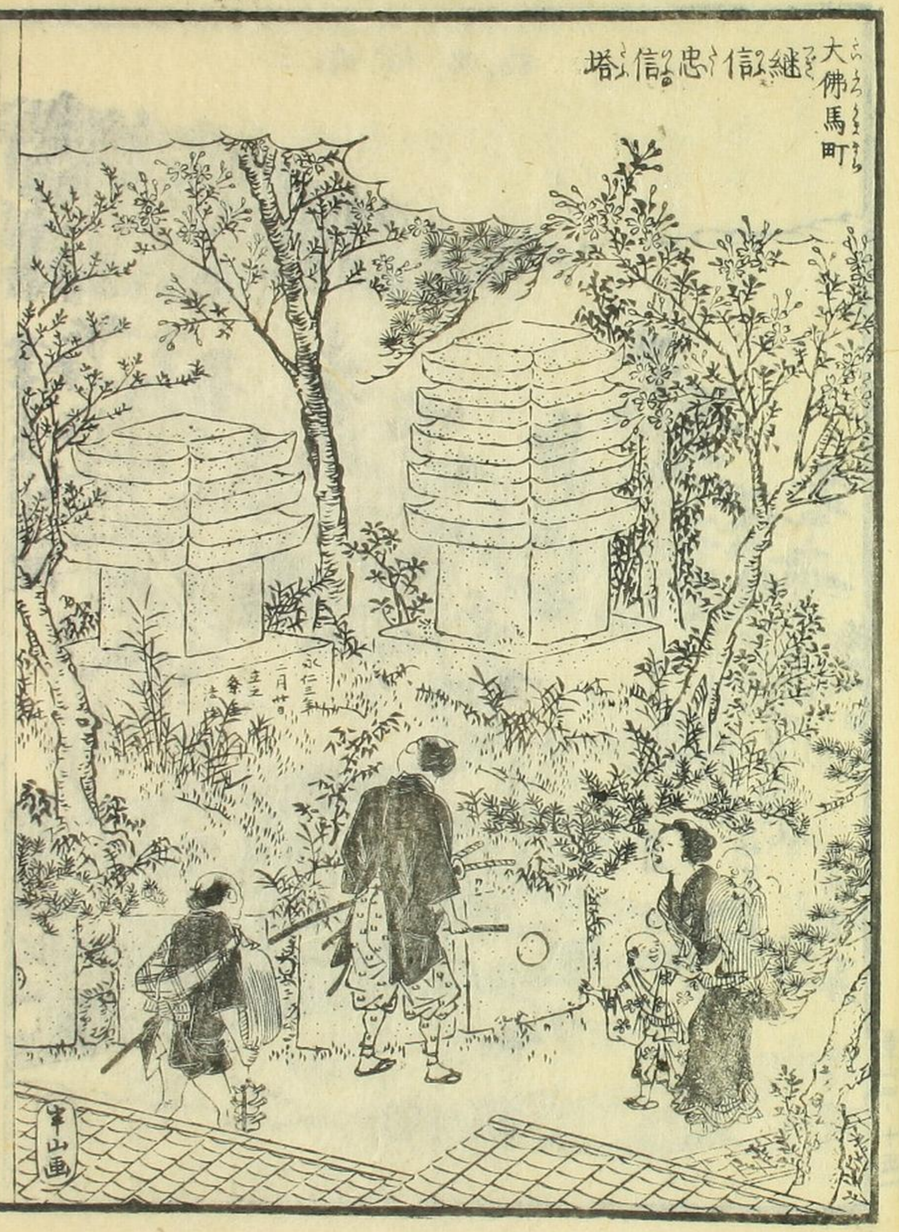
鐘楼 目傍にあり 経蔵 方丈 庫裏 北の方にあり 本堂の

鎮守祠 経蔵の西にあり 樓門 西向 額 九條関白尚実公の御筆 明和年中に掲る所なり

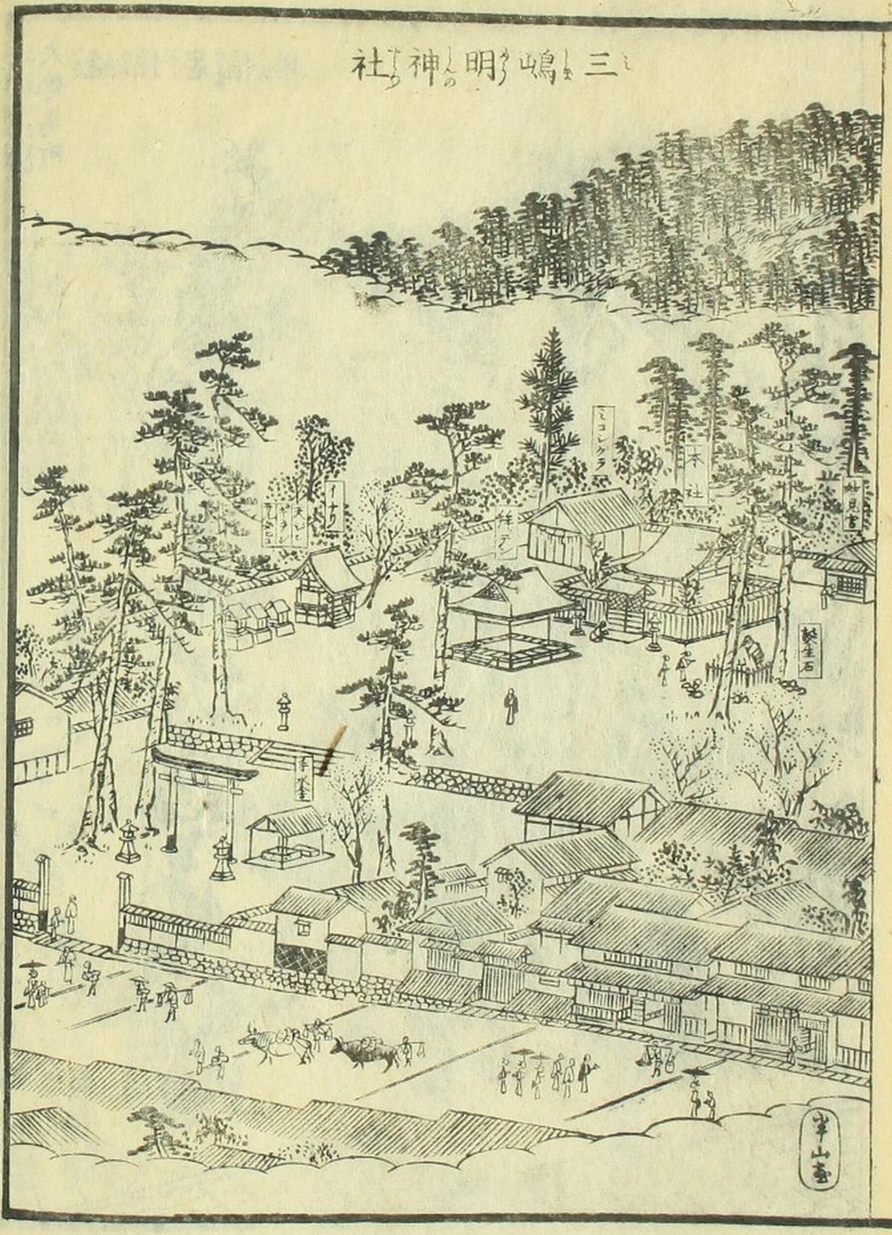
此地は往昔月輪兼實公の御殿なりしを小松殿なりしを称せしなりた

圓光大師此御殿の御堂にまします黒谷傳記に見えたり

傳記 ゆかせたるに小松のもとに錢をつみ安置寿佛の近くにまつ 源空上人



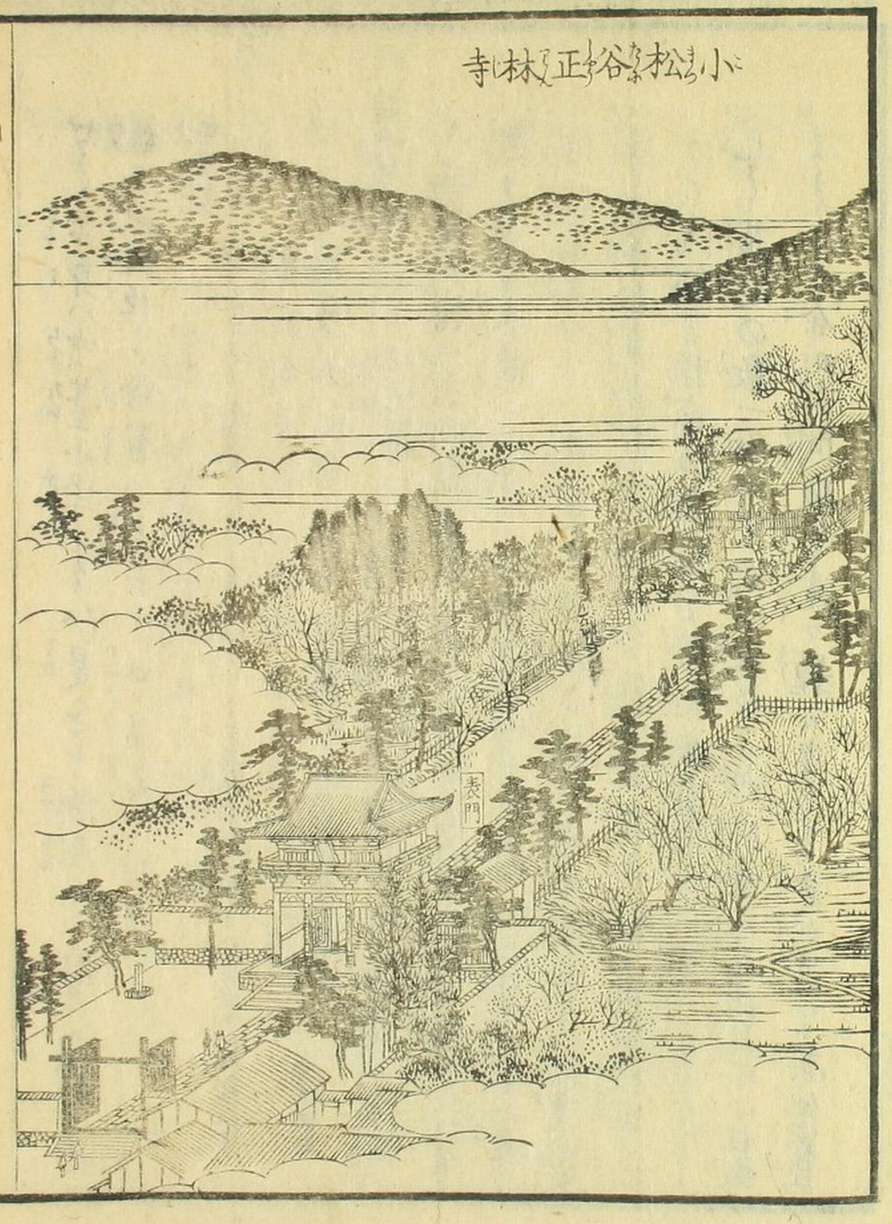
三嶋明神社

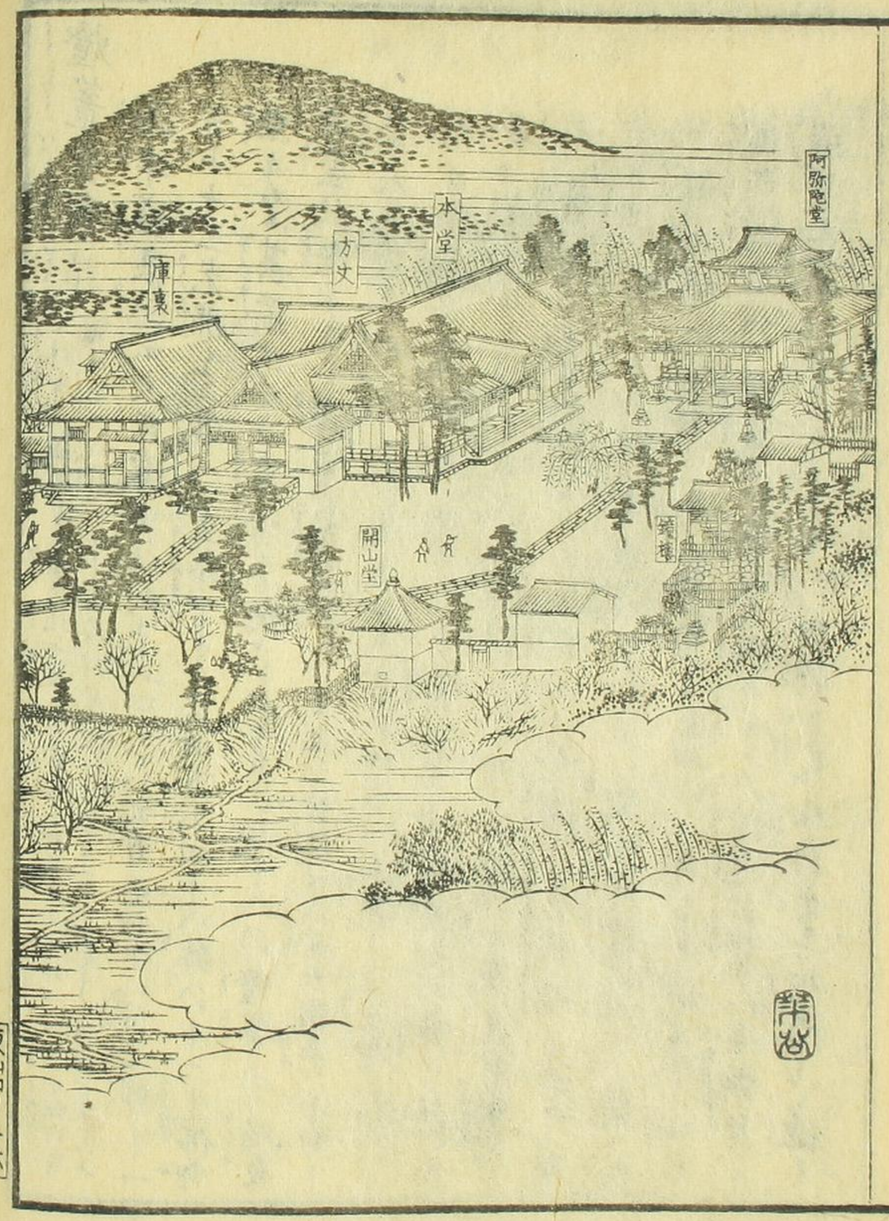


燈籠堂舊蹟　正林寺の西の方人家の北小谷あり是を小松谷とよぶ此所往昔小松内府重盛公の山荘なり近頃燈籠堂の字有る石を掘出せりとぶ

源平盛衰記云大臣常ふ往たまふ所なり四方ふ四十八間を點じ一方ふ十二光佛を一躰づつ立奉りそれ四方ふ四十八躰の十二光佛御坐々々其前ふそふ常燈を燃されそれ四十八の燈籠あり晴夜の星ふ限もなく澤辺の螢ふ似たり上ハ廿歳下ハ十六歳色ふかく姿人ふ勝れ形なくしなき美女を四十八人樋ふ常燈ふ一人づつ付りて油を添燈を挑々くそ置ふる齡廿ふも餘ふれハ取更々居られそれ日没の時ふなれハ四十八人の女房達衣裝花を折蘭麝の芳ふ新ふ〳〵日没閑ふ禮讃し念佛唱〳〵四十八間ふ廻られそれ念佛禮讃終りぬれハ彼女房達六人づつ番を結く鼓銅鈸子を囃〳〵今様謡〳〵又四十八間をそ廻りそれ心ふ闇の深き ふの燈籠の火ふそ照もそれ弥陀の誓ひを頼身ふ照さぬ所ふなりそれ別の詞を交りそれ是を折返し〳〵謡

小松谷正林寺





せ〳〵吾身ハ中葉ニ坐し給ひ是を聴聞せんと云こと
故ニ此大臣を燈籠の大臣と申異名しける

風雅集　小松内大臣家ニ菊合し侍るに人〳〵〳〵

うつろふ菊のあるかなきかの紅葉かな　右京大夫

第五橋東松谷殿風流蓮府鎖烟霞　北尾孟軌

遥思巫相全盛日金龕玉燈舎麗華

六波羅館古趾

泉殿ハ今の大佛殿の辺〳〵を中央〳〵北ハ五條南ハ七條ニ至り大和大路を門前〳〵此所ハ南方朱雀也北方の東ハ前巷ニ見さう

六波羅の館ハ平正盛を始め刑部卿忠盛重代相續の地なり

然ルに末終ニ封境一町四方ニ過さるか相國清盛公ニ至て

境地廣大ニ〳〵殿舎ニハ和漢の香木を聚む其南方ニハ池あり傍ニ水殿を造る是を池殿と称

〳〵大納言頼盛の第なり宰相教盛の第ハ惣門の傍なり

凡〳〵第宅の數一百七十余ニ及ぶ内府重盛公の居宅ニ松殿

まで〳〵二十余町の間殿宇連々巍々として建列なり其他家臣

眷属の住所を數ふれハ五千二百余宇なりしかを平家滅亡の後

池殿を改て源頼朝卿の新亭ニ〳〵文治二年ニ上洛あり〳〵後

ニ著わ甚後また北條武蔵守泰時同相模守時房ニ〳〵来て

政道を行ふ此時兼久九年なり又建長七年北條義宗来て

六波羅の北の方ニ居ルかく〳〵南北ニ分て〳〵政道をなスル故ニ

西六波羅ヲ号せり然〳〵後稍星霜を経て元弘三年五月官軍

の大將千種忠顕卿赤松則村足利高氏等ヤ兵を合せ六波羅を攻圍

む北條時益同仲時竟ニ敗北〳〵後伏見上皇花園帝を供奉〳〵関

東へ逃走ル爰ニ於て西六波羅の館こと〳〵く断絶なり

専定寺

大佛前北側ニ有り宗旨ハ浄土宗

妙法院御門跡ニ属ル

本尊

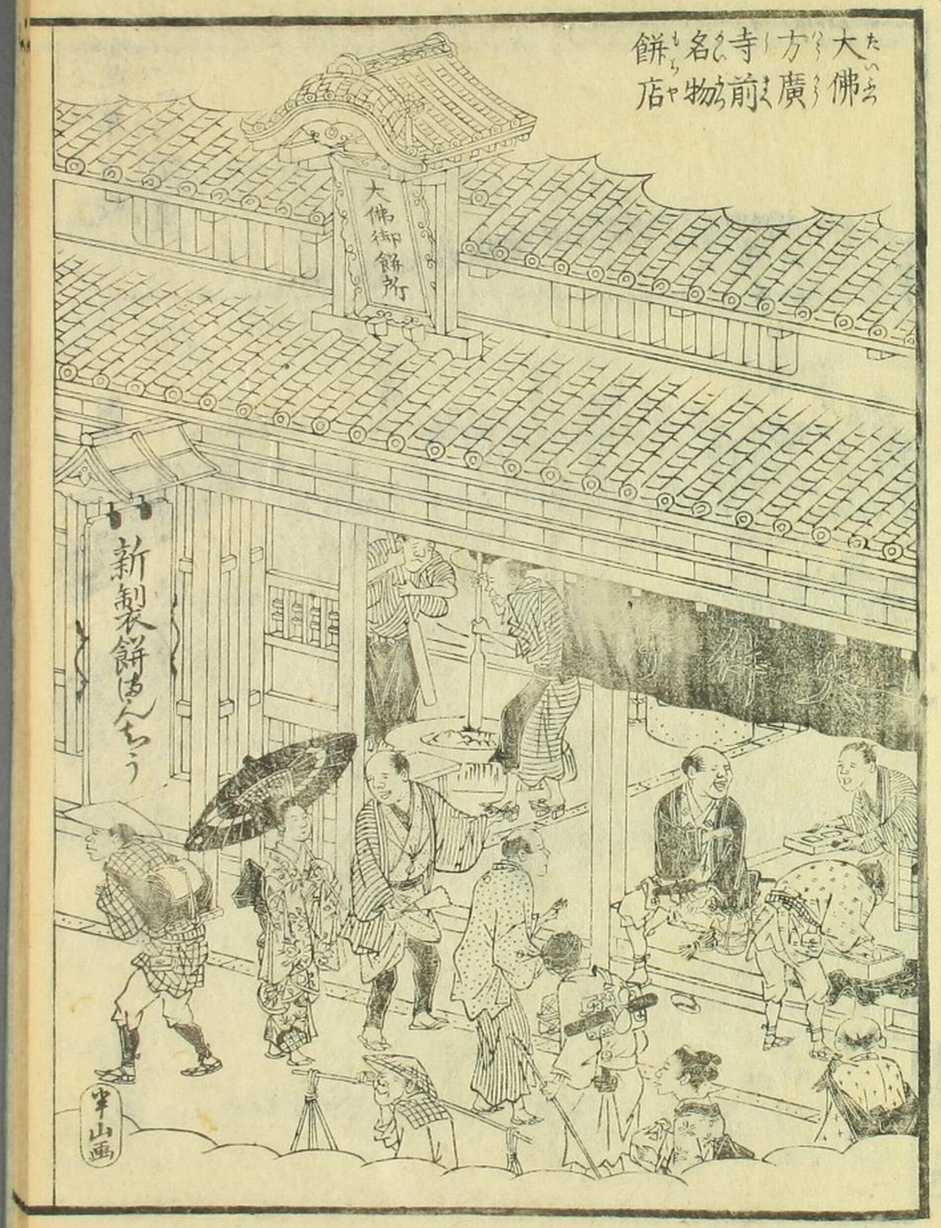
阿弥陀佛　恵心僧都の作六方体彫刻の内終の尊像なりと

獅子地蔵

小野篁の作元禄の頃伏見の人谷左近と云ふ者此尊像を感依

或時吉妻の方へ化して遂ニ命を助け其時此地蔵尊獅子に乗て大井川を渡る水まで〳〵一里ハ漂流

世人獅子の地蔵と称



名物大佛餅

大佛前街道の西側にあり隅田基大佛殿建立の時より此餅を業とす賣弘めは唐破風作の額看板井出正水の筆招牌は佐々木志達の筆其味ひ美にして頗る蕩々たり殷花の虎屋饅頭と相伯仲に遠近に名高く洛東名物の一なり

大佛餅を滝本坊へ行るるとき

白たへの雪ふる山のもちなれかちんこへる食のふるけよ　安楽庵傳策

しろたへの雪の肌へもちふれんのもちあるくはひつくら　滝本坊惺々翁

耳塚

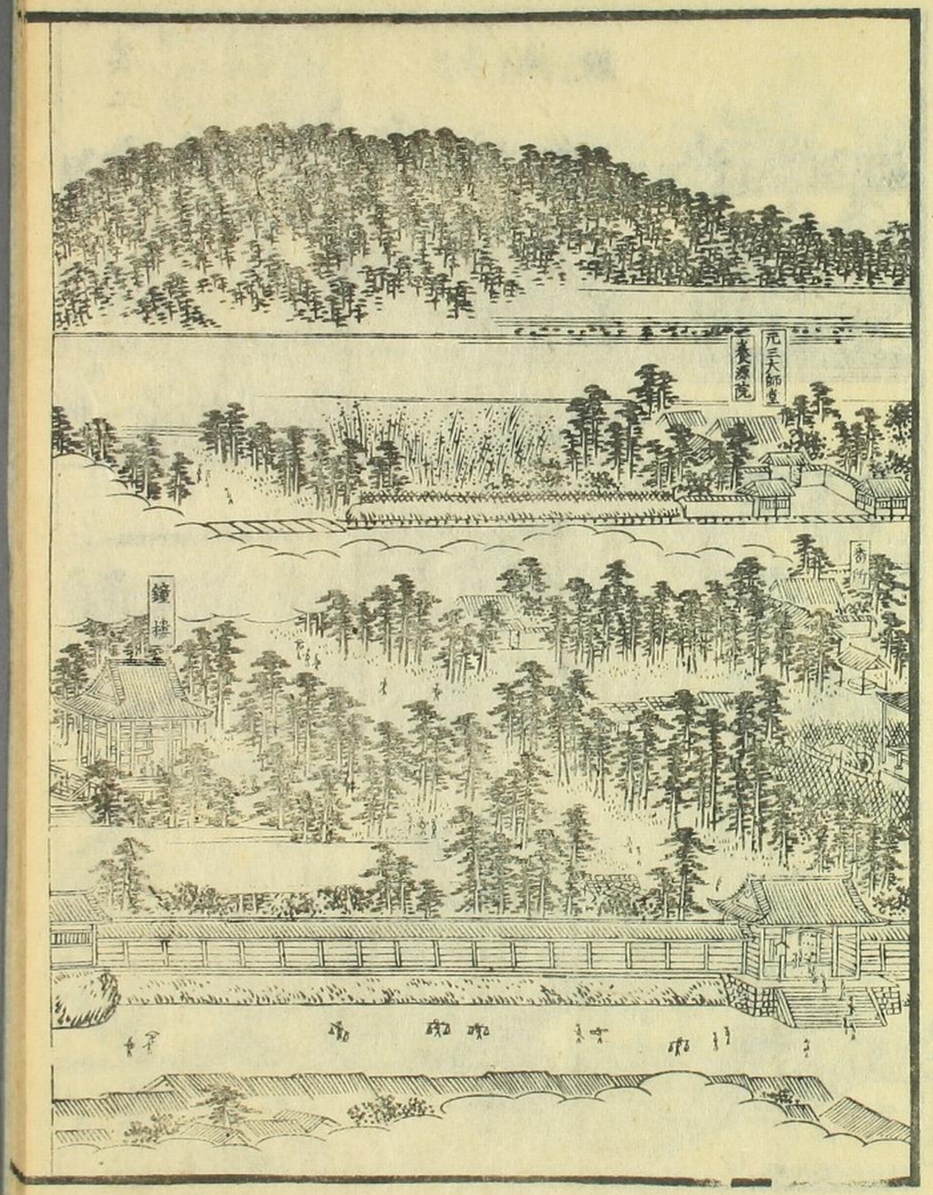
同前南側にあり塚の廻り百二十間高サ五間土壇壹丈二尺あり

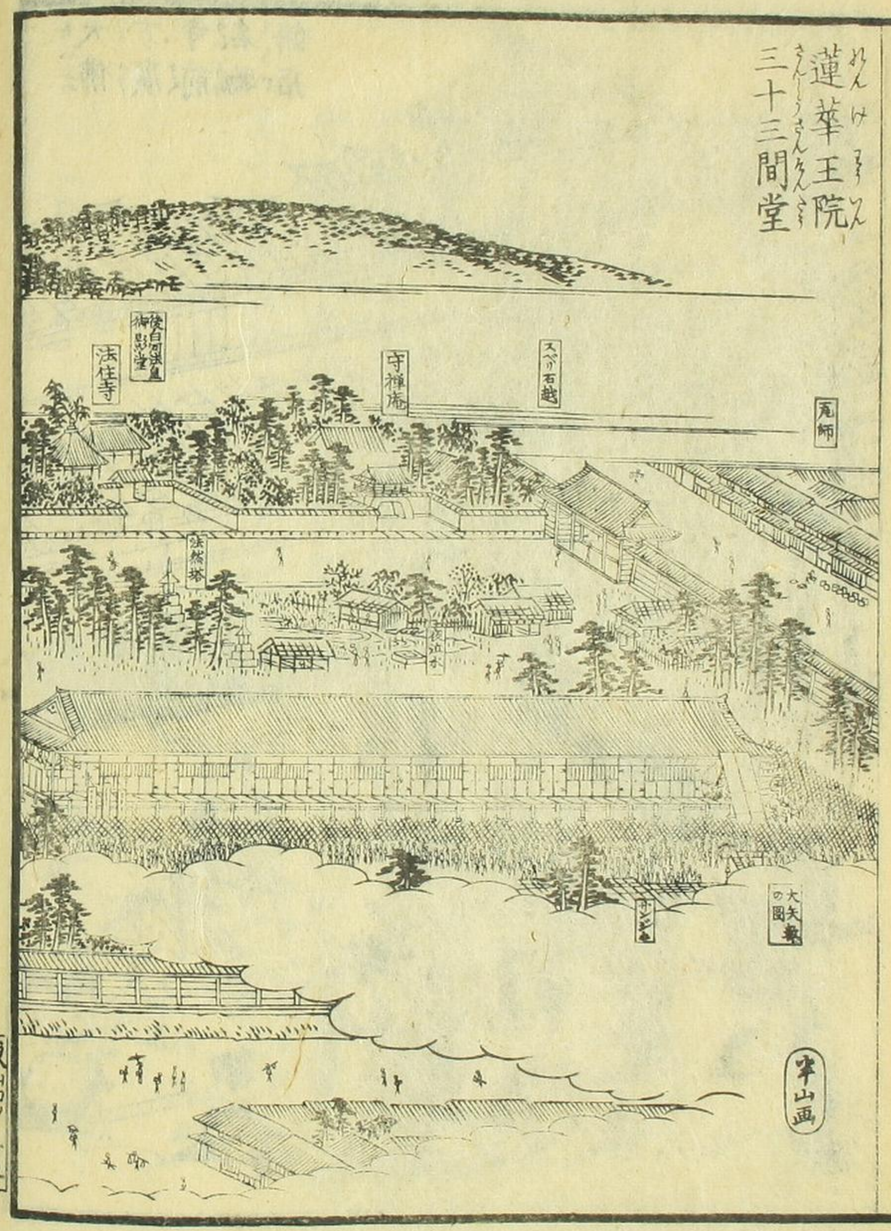
豊臣秀吉公譜曰頃年朝鮮在陣諸將報進其斬獲之數或人以其首級之重故剿之耶之而遣于京師秀吉大喜賞之自此之後諸將皆效之不可勝計也其獻軍實于秀吉必曰鼻若干耳若干秀吉并埋之于洛畔大佛殿邊号耳塚其後朝鮮人來貢之時到塚下誦祭文而弔之哭泣曰此輩是輸死報國者也

投鹹歸來此築墳可憐萬里背親恩
和歌不入殊方耳強唱唐詩慰旅魂　釋元政

耳塚見たるとき

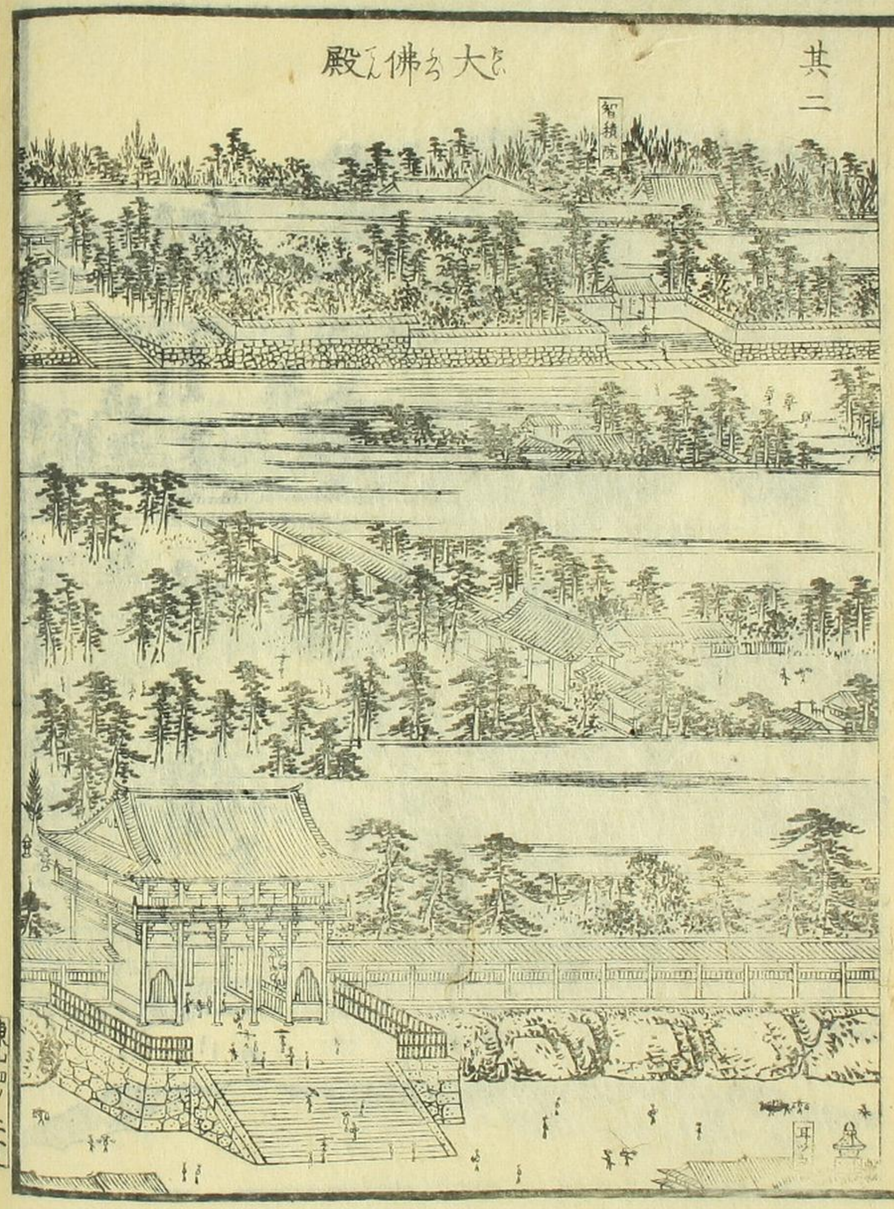
こゝふ来こゝけ郭公の耳塚のうへ　芳樹

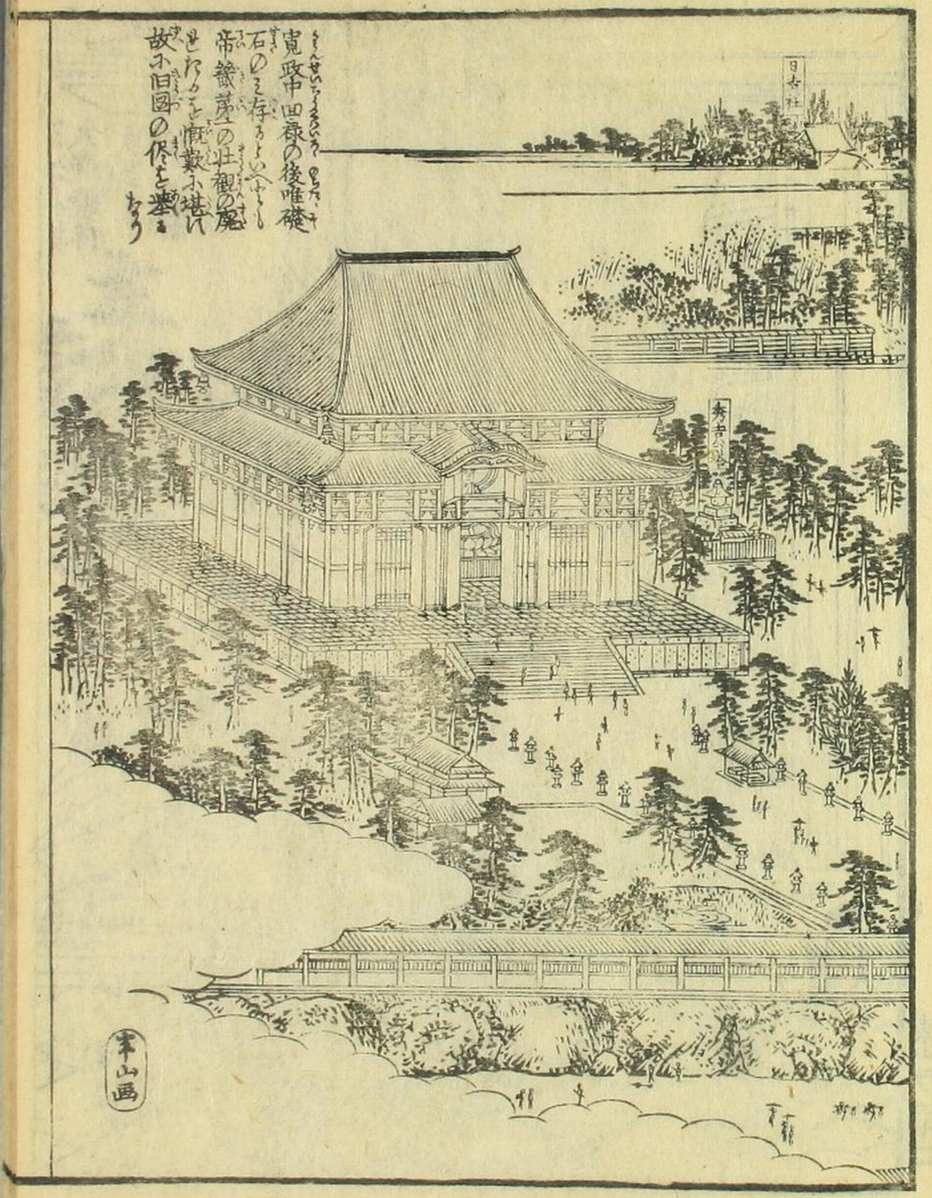

元三大師堂
養源院
鐘楼

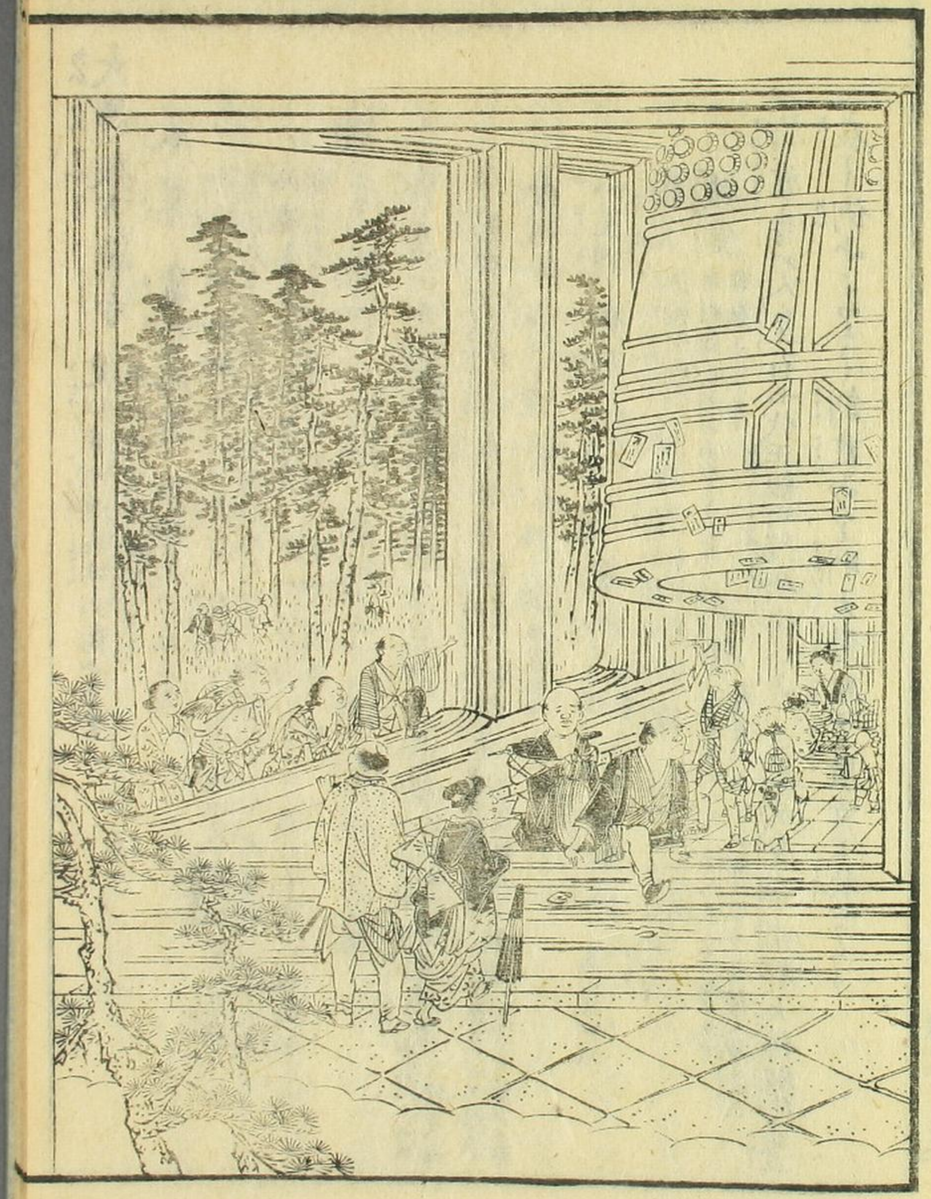

蓮華王院
三十三間堂
後白河法皇御影堂
法住寺
守禅庵
スベリ石越
瓦師
塗然塔
大矢数の図
宰山画

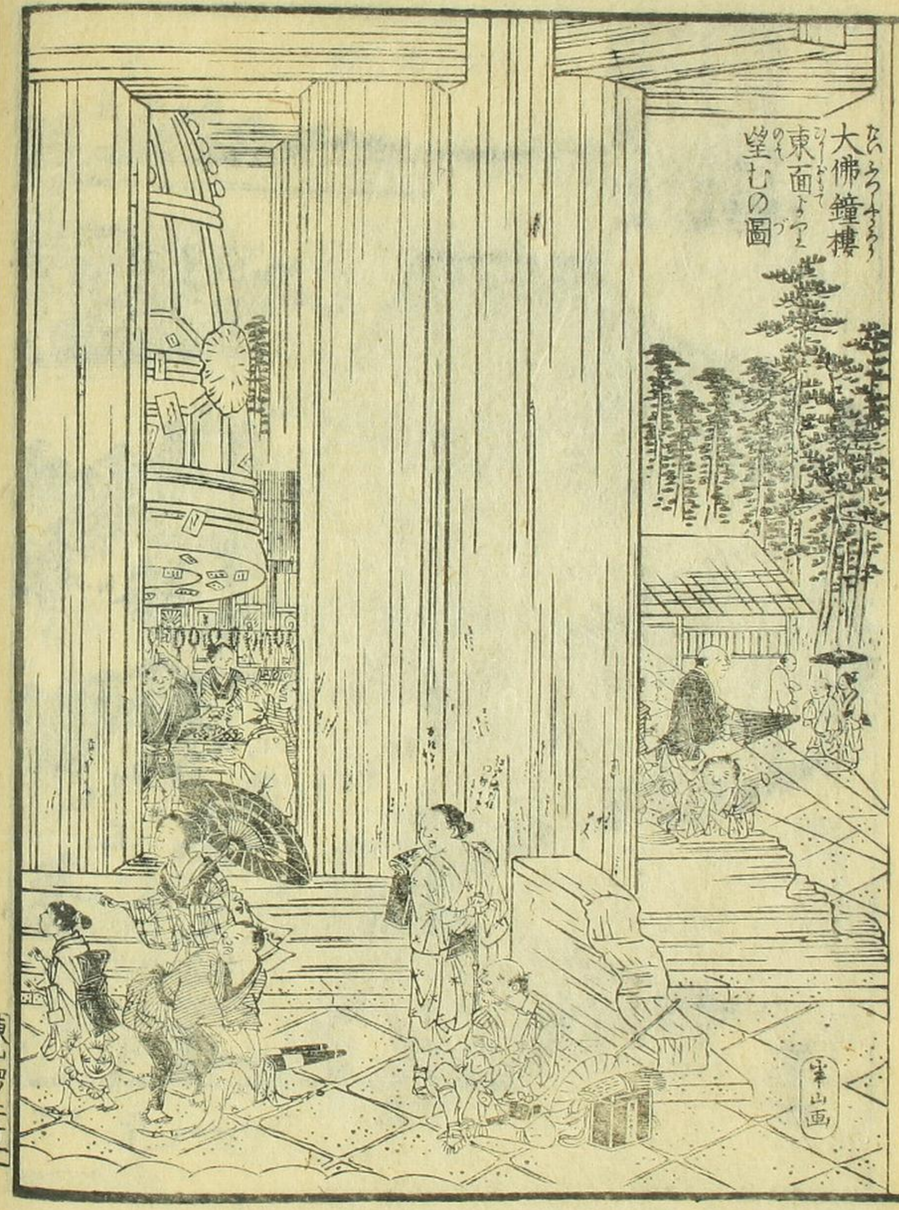
其二

大佛殿


智積院


日吉社
寿老人
寛政中田祿の後唯礎石のみ存ゝ帝釐殿の壮観の麗とたゝへ慨歎ふ堪へ故ふ旧図の侭を摹す
平山画





大佛鐘樓東面より望むの圖

大佛殿方廣寺　建仁寺町通馬甲の南にあり　蛇法院官邸抱所なり

本尊　盧舎那佛　座像長六丈三尺

面長三間　眼横五尺五寸　竪二尺　鼻高五尺五寸　横四尺　鼻穴二尺　耳長一丈

掌指のもの迫二間　大指周六尺五寸　中指長六尺　足裏長一丈四尺　横七尺

西膝廣五丈一尺　膝厚八尺　螺髮　六寸　二尺五寸　數三百五十　白毫徑二尺

後光高十八間　横九間　蓮華　檀　各八尺

同堂　桁行　四十五間　二尺五寸　梁行　二十七間　五尺五寸　棟　高二十五間

柱　九十二本　徑五尺五寸　但片屋十七間　虹梁　長十五間　上屋棟　千五百二十八坪　但片屋十七間　同葦瓦　百八十七枚　妻軒百八枚

下屋棟　千四百七十二坪　但片屋八間　同葦瓦　表二百三十二枚　妻百四十八枚　牡瓦　長二尺七寸　幅周一尺三寸　深三寸　牝瓦　長二尺七寸　幅周一尺三寸　厚二寸五分

金剛垣　徑十八間　壇上　幅三間五尺五寸

二王門　桁行　十五間二尺　梁行　六間一尺　柱數十八本　金剛神　高一丈四尺

狛犬　門内にあり　金色長七尺　金剛垣　四箇各方三寸　廻廊　二王門の左右に列る　南北百二十間

鐘堂　南廻廊の外にあり方四間　柱數十二本　洪鐘　高壹丈四尺　徑九尺二寸　厚九寸　慶長十九年に鑄所なり　今銘文磨滅し

抑當寺八人皇百七代正親町院御宇いまし聖武皇帝南都大佛殿御建立

在り例によりて創建あり則大佛殿方廣寺と称せり

豐臣秀吉公譜曰天正十四年是年秀吉謂於東山可築大佛殿云相似于東山

佛光寺而定之　佛光寺は宣旨祖徒家真師上人附属の道場なり　後醍醐天皇元應元年

南八菅谷を限り北は汁谷大路に至る足利家の代は佛供田を寄附せられ繁昌の大寺たり　今地獄谷に在り東は阿弥陀峯を限り西は柳原に至る

爲三其一則地形堂之其一則石垣堂之其一則築山堂之佛像者以銅鑄之則其成

晩矣故爲木像漆膠以塗之五彩以飾之云　片桐東市正直盛糟屋内膳正古田

兵部少輔寺西筑後守早川主馬首間嶋彦太郎副之堂之高也二十丈佛之高也十六丈

是舊式也今不敢違云以高野山木食興山上人使掌之興山悅卽搆草庵于佛光寺邊以

監之佛像漸成而塗漆膠搆築山於東邊繫繩於巨柱以車運之其爲巨柱也千夫不

得動之而今以百人之力運轉之其工巧類如此四方石垣者初以小石築之然恐人之盜之故

以魁石改築之其運錘石也甚極群黎之勞其頒于經營之用者毎日五千人興山悉

勤其事然後求棟木于四國九州岐岨山飛驒山而無之卽遣人於富士山而使見之工人復命曰

有之云使伐其木而到大阪此一木之費五百人之用黄金千兩之弊也自是而後大佛殿

既成又鑄洪鐘而挂之凡大佛殿之修造歴數年而後其功甫就矣

然る程に石燈籠敷石或いは石垣の大石等寄附の諸侯方の家名又は紋所國々の出所を石面に鐫り然るに慶長元年閏七月大地震にて佛殿以下悉く震崩れこれに依り同七年豊臣秀頼公再建し給ふ銅像を鑄るに失つて焼亡し又十五年に再び金銅を以て造らしめたまふ其後五十余年を経て寛文二年また地震して彼像破壊せしかば木像に造り改め金漆を以て餝り同七年に成就して舊觀に復せり

大佛殿

殿宇如山嶽旭日佛光新
霞間仰金面繹渉法界身　嵩垣彦明
曾費黄金十萬駄鑄成百丈大沙那　賴惟柔
佛與檀越俱灰滅耳塚蕭條春草多　木兒
白毫の上に苔もつれ月
移妻比問や大佛のまゝの影　許六

燈挑もて大佛の鼻孔あぶり　木導
嗚呼惜ひ哉大佛殿の巍々廣莫たるや都鄙億兆の目を驚かせしも寛政十年七月朔日曉雷火の爲に佛殿及び大像二王門廻廊等に至る迄悉く回禄し一片の灰燼やこれを今終に其礎石を見て懐舊するのみ往年再建の結構有り專ら勧進有り時の至り其後絶たるを惜むなり

方廣寺火後

世中何者免無常千尺佛身今則亡　釋獨雀
只有弥陀峯頭月雲間遥拜白毫光

大佛もなく焼くまゝに雲に峯　升六

當境内の芝原に芳草あり中秋の頃花の盛りに彼所に床机を並べ席を設け客を待ち都下の男女打群れ草陰に座を下し飄酒を酌み戯れ甚だしく酒肴餞蘭の料店あり客人に酔を勧むれば帰路に足もよろ

あはれなるかな今様謡ひたるも秋の夕暮のあはれ催さる折からかゝれぬるは文帝城の賜物にして一佳玩なりといふべきなり

太閤秀吉公墓

大佛殿の南にあり豊国廟廃して後是を営みしなりといふ五輪の石塔婆なり塔前の石燈籠には慶長十年九月とあり

阿弥陀峯

大佛の東にあり豊国山とも又昔は此山の半腹に宝皇寺といふ寺あり旧跡詳ならず 文徳実録云天安二年四月庚子天晴是夜宝皇寺火戸寺嘗名鳥金堂禮堂盡焉 所祭名跡巡行志云堂有阿弥陀像置行基建立也元和建武の頃滅亡す本尊寺移三條東金剛寺又北花山村当山の本尊なり或云阿弥陀堂山上山下二所にあり

阿弥陀峯懐古　　牧輗

斬艾曾開後覇天　一抔何處弔當年
却歎隋主猶多幸　長占雷塘數頃田

中秋のまへ方廣寺にて

まち月の光のかゝぬるはあみたが嶺を秋と初むるき　　加茂 直兄

花ふられあみたか嶺のゆふしかな　　貞室

月しろやゆふたか峯にひかりけり　　雨橋

豊國神廟廃跡

阿弥陀峯の前にあり関白太政大臣従一位豊臣秀吉公を此阿弥陀の峯に葬り木食興山上人監して太閤の法号を国泰寺雲山俊龍尊儀と号す

朝鮮物語大河内秀元云慶長三年戊戌葉落月十八日辰の刻御年六十三歳にして両楹の夢くと醒ましと云 御死骸を金具蒔絵の御箱に納め奉りぬ然れども御他界世に隠したまひて依て収め長月の上旬都の東に当て阿弥陀が峯に御箱を納め奉りたまひ十一月一日の末明より御廟の地形をならし石垣を築き本社宮殿回廊拝殿三門等御馬屋に至るまで悉く御造営ありて其程に並木の桜石燈籠以下まで悉く慶長四年己亥三月中旬に出来けりと云云 神号は勅して豊国大明神とぞ諡し卜部氏を神主となしける今廃して其趾詳ならず

登豊國神廟壁　　木下貞幹

朱樓金殿盡頽廢　一句俱攀夢幻栄
依旧名花誇麗景　到今好鳥弄新晴
晩烟斜落平林暗　夕日川原遠水明
詩去詞鋒有誰敵　驪壇欲築受降城

岡崎信好

春日京城外　攀躋林岳涯
樓臺餘礎石　歳月隔繁華
路没漢間草　泉埋崖下花
欲尋祠廟跡　處々鎖烟霞

妙法院宮

方廣寺の東馬町の南側にあり 御家領千六百三十六石余

延暦寺恵亮僧正開基以来御代々山門座主法務宮御門跡御相續し給ふ元祇園の南にあり小坂殿また綾小路宮と号し豊國社創建の時こゝに移したまふ

新日吉社

妙法院宮の御鎮守御殿の南東にあり

本社 西向 日吉山王権現 祭る所江州日吉社に同じ 金燈篭 奉納 片桐東市正且元 同主膳正貞隆 一對

神楽殿 本社の傍にあり 拝殿 西向 額三十六哥仙 古筆名画 末社 本社の左にあり

當社は往昔後白河院の御勧請にして旧地は今の地より二町ばかり南日吉坂 今まくりやといふ 一所なりしが應仁の兵乱に破壊せしを其後堯然法親王再建して今の所なり殊更頃年新造して壮麗たり例祭は五月十四日にして神輿一基鉾一本あまた荘重の儀式なり前日より氏子の若者ども手寄く社頭に種々の造り物をなして参詣の老若大いに群集す

按ずるに難太平記に新日吉をいまひえと仮名を附たりこれも新熊野と同時に同所の勧請なればいまひえといふなるべし日吉はもとひえと訓ず則比叡山も日義なり古事記に日枝神とあり原によりて往古も主をひえと書きたるか後によしといふなりたるか新日吉社は今の智積院の地に在て後の豊国道といふ所をいまひえの辻と古図にもしるせりこれ今の妙法院智積院の間の坂なり

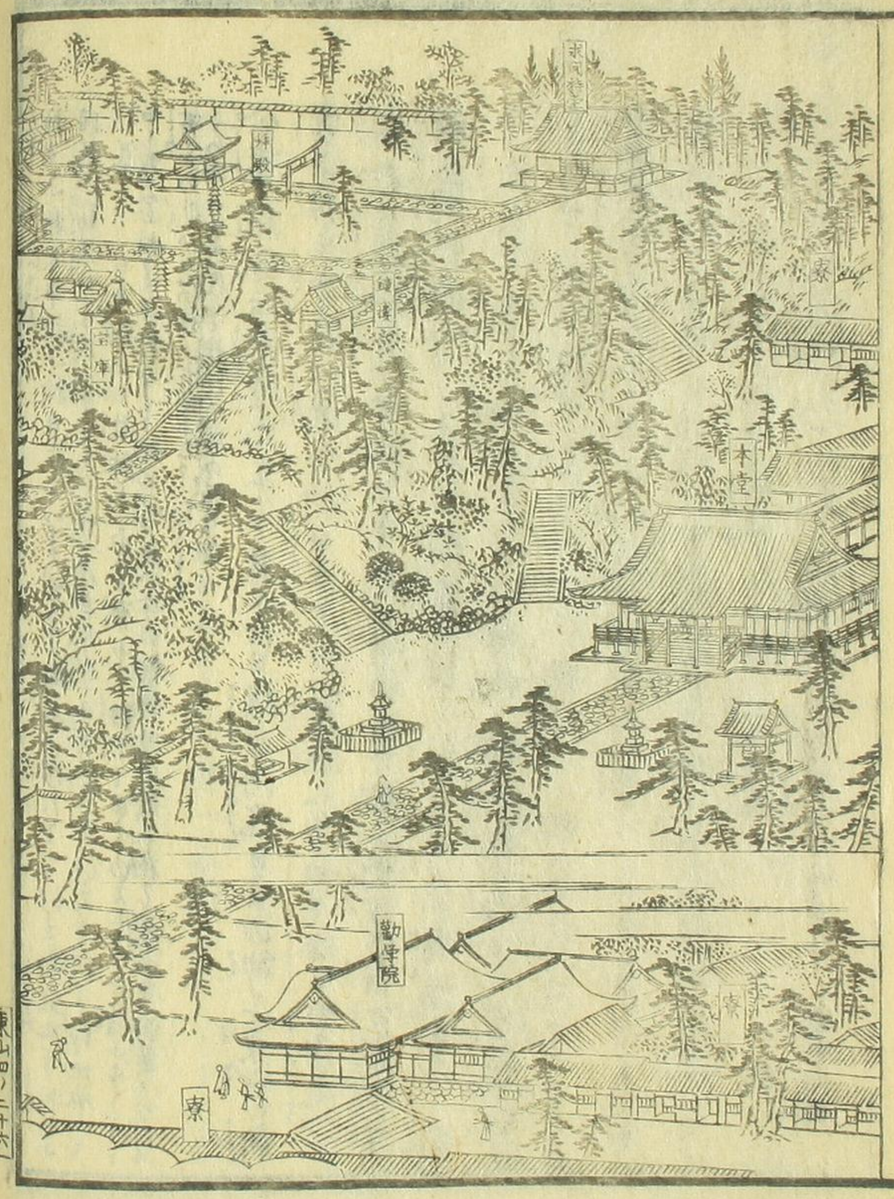
公事根源云永暦元年十月十六日後白河院日吉の神を東山の新宮に移し申さる是を新日吉といふ應保三年四月晦日始祭之云々

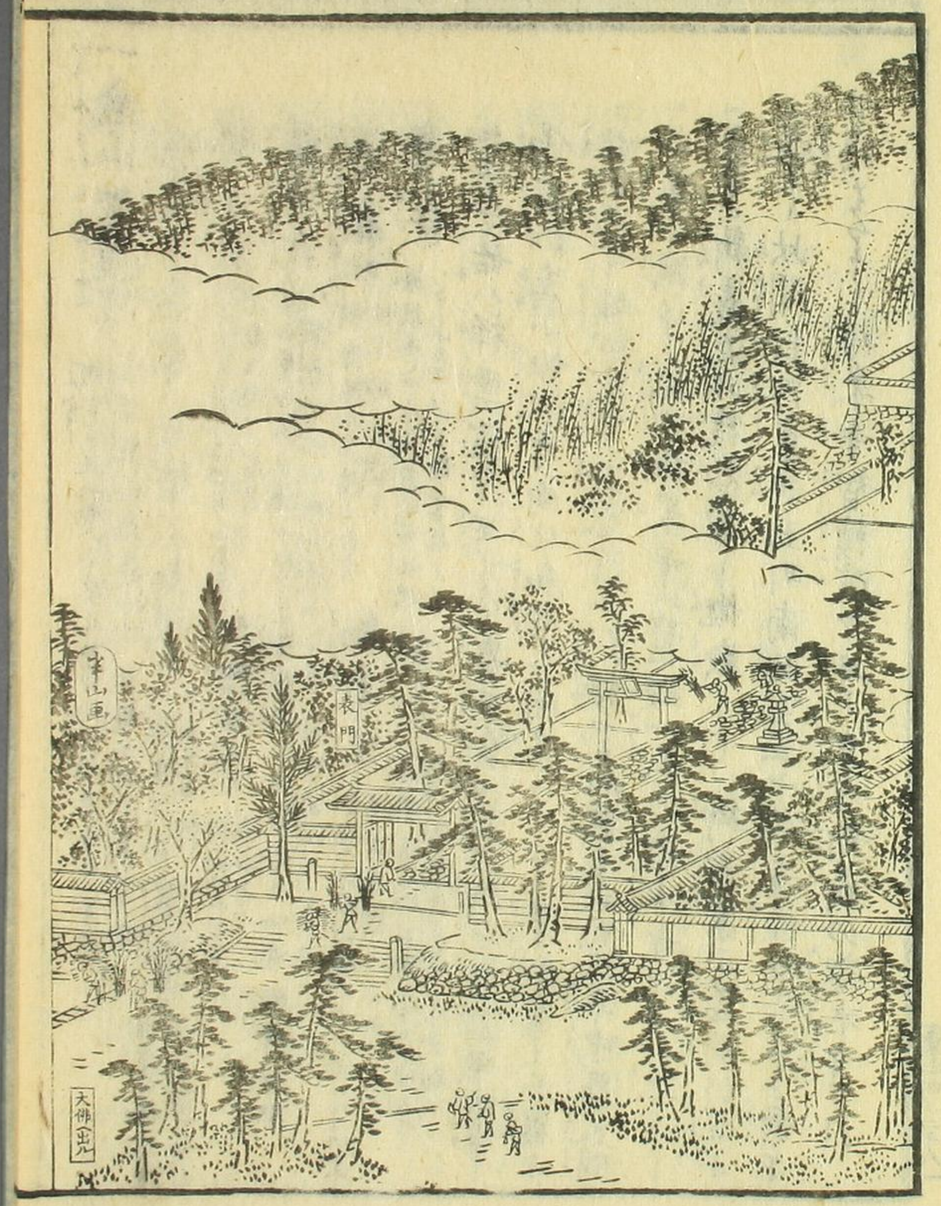
古今著聞集云建保五年新日吉の五月會に新院の番長秦頼峯府生同武澄つかまつりて頼峯おやにかちにてかけけるが馬場末にて落て死たりけるを郎等走りて父頼武が御桟敷に候ひけるに先生殿のおちさせ給ひぬと告たりければ頼武いそぎ捨ておひたりけるにまさしく下部走りまいりて御前の見えさせ給はぬと告たりければ已に見えなんと云たりければ則下人が烏帽子を引て逃て参たりけるこそをかしく見えけれ

新日吉の社にて詩合しける時 山居見鹿

それのみ住むかひつれど時鳥我が山の〔?〕にぞ鳴なり 祝部行親

智積院
新日吉社奥
妙見堂
東山東
童所
玄関
方丈


本堂
勸學院
東


表門
大佛出入

其二
智積院
表門
新日吉社
表門

一乗山智積院　新日吉社の南にあり又五百仙山根来寺ともいへり　宗旨真言新義　寺領五百石寮七十軒

本堂　本尊　大聖不動明王　坐像長三尺許　奥敎大師作

高祖堂　本堂の左傍にあり　弘法大師と奉祭

開山堂　高祖堂の上山の方にあり　奥敎大師を安置

阿弥陀堂　開山堂の傍にあり　春日　加茂　稲荷　伊勢

鎮守社　開山堂の後左傍にあり三部権現　祇園　八幡等九座の神を祭る　以上九所明神ともいへり

藤森社　阿弥陀堂の傍にあり　地主神を祭る

勧學院　本堂の前の傍にあり　諭義講説

學寮　坐彼所にあり一宗の所化僧を集め勤学に

方丈　客殿書院　玄関茅門　庭中林泉の風景尤美観なり

當寺始め祥雲院と号し豊臣秀吉公の御子秀君早世有て佛果の為に妙心寺南化和尚を開基として草創有しが後に故あって妙心寺中玉鳳院に引移るが然るに天正年中豊太閤の為に滅ぶ紀州根来寺に覺鍛一流の惣本寺たるに純一支を新義流の徒共少し慨歎し御當家に愁訴し是に依て此間封内東西五町南北百五十間寺領五百石を新に賜はる根来寺智積院と号し真言新義の惣本寺なり

蓮華王院　智積院の西大佛殿の南にあり俗三十三間堂と号す　妙法院官領特なり　寺領拾石九斗

本尊　千手観世音　坐像長八尺大僧正行慶小佛師康慶法眼

二十八部衆　檀上に安置　東寺仏師運慶作

一千躰千手観世音　左像各五尺許内三百躰は康慶康永の作二百体は運慶の作其余六條万里小路七條大宮大佛師の作

所なり云　本堂東向南北六十間一尺四寸六分東西八間三尺七寸也其長三十三間に以て三十三間堂と号す　地の瓦は豊太閤の桐の紋あり是は大佛造営の時なり故なり

夜啼水　堂前にあり甚小なり　元亨釈書百練抄等に見えたり甚小なり

漢子花多く咲乱れ濃しはきの由縁の色の水面に映る

光景ひしき当封内の　前下の騒客ほとりの茶店に宴を催し終日楽しむ

一佳境なり

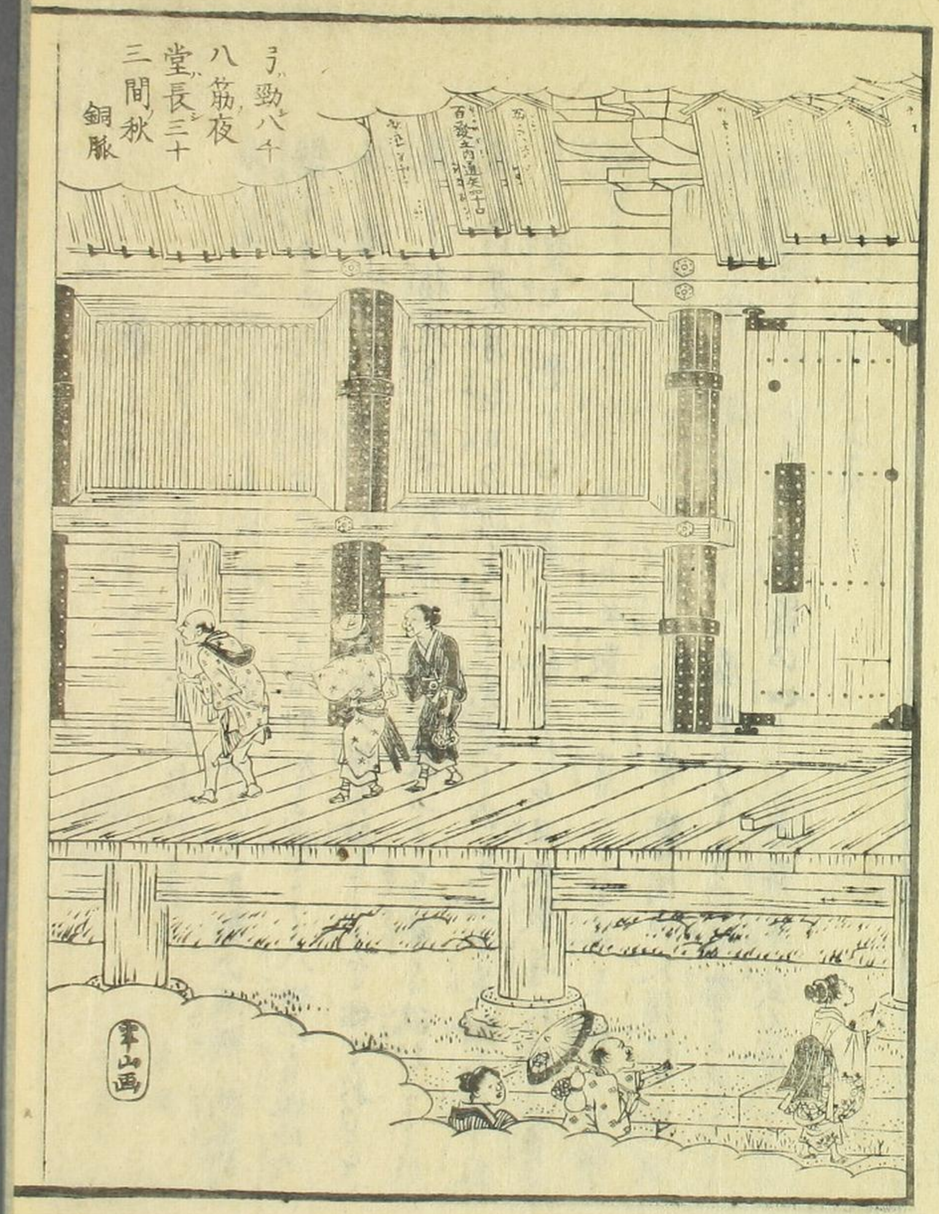
抑當寺は人皇七十七代後白河院の御願にて営建なり所なり此法皇常に御頭痛の御悩ませ給ふ醫療さまざまに奉るといへども甚験なし此故に一歳平愈の祈願せられ給ふ紀州熊野に御幸あり大権現に祈り

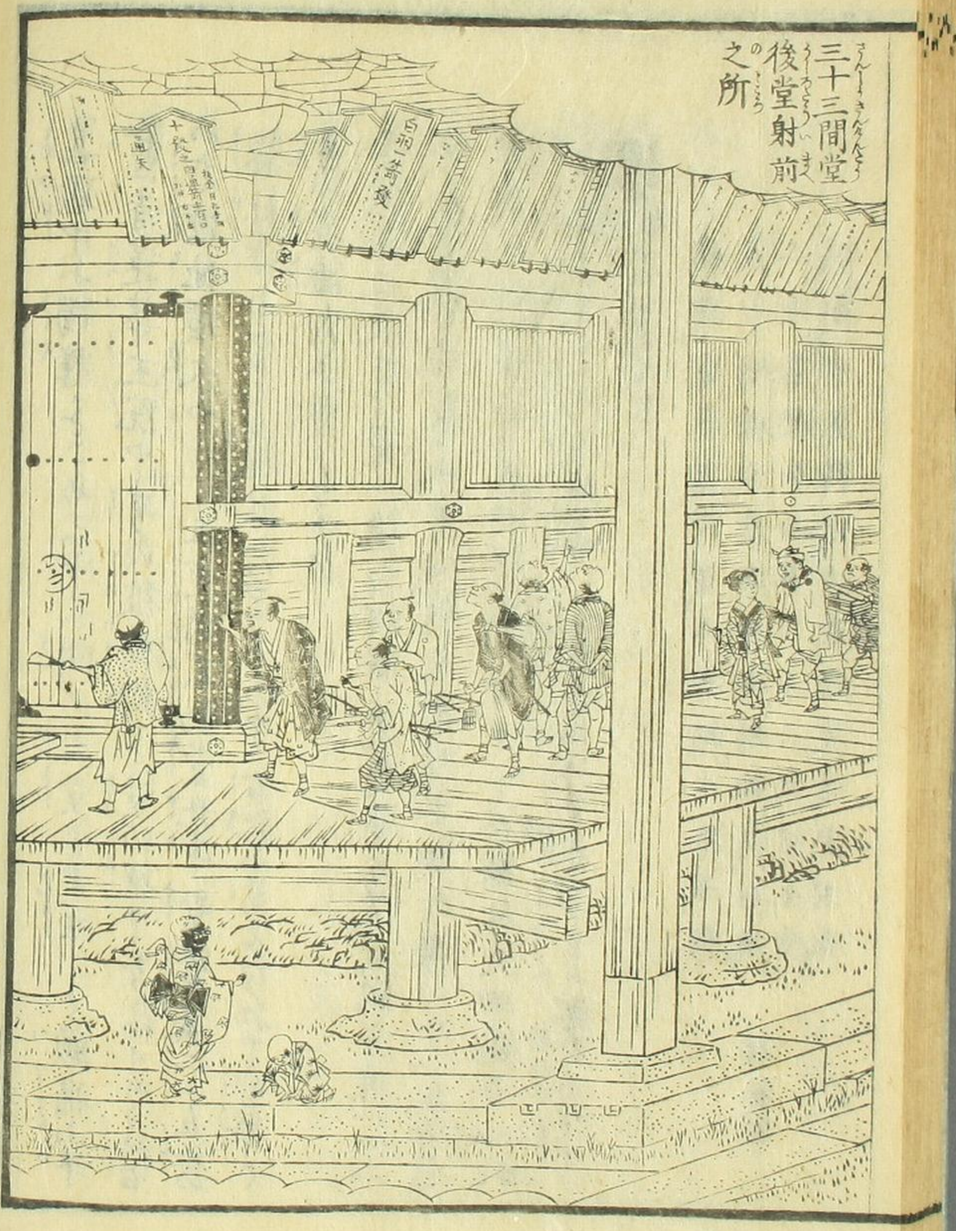
たまふ其夜の御夢に権現告げ宣ふや洛陽の因幡堂に
天竺國より渡来せる所の名醫あり彼に治療を受ひ
必ず平愈すべしと云ふ依て時に永暦二年二月廿二日に
因幡堂に參籠あり唯管に祈願を御願満ちる夜更
闌て貴僧一人忽然や現き告て曰く法皇の前生は熊野
にあり蓮華坊と云ひしなり人なりしか普く海内を行脚
して佛道を修行し其功德によつて今萬乘の帝位に昇れり
然るに前生の髑髏は打捨て尚岩田河の水底に有り
其頭より柳の樹の生せる程に風の為に其枒樹
の動揺する毎に則今の身に響き此脳を悩ます急き彼
頭を取上て苦脳速に免るへし香水を以て法皇の頂に
洒ぎ思召て御夢覚なり斯有て彼所を見せ
めたまふに河底より髑髏を得る是に於て観音の尊像を作り

其頭中に髑髏をこめ三十三間の大堂を建立て頭痛山平
愈寺蓮華王院と号し彼柳樹を堂の梁や桁に用ひ往
古境地廣大にして五重塔不動堂北斗堂寶藏二十五社の
惣社等あり巍然たり今に其跡たに定かなる古記に見えたれ皆廃
山城志云長寛三年後白河帝建蓮華王院安観音像一千一
躰初鳥羽帝長承中剏得長寿院安観音像一千一躰寶治
中俱同禄文永中再興併為一寺見千百練抄及増鏡等（按今蓮
華王院又得長寿院称之得長寿院に十一面観世音一千一躰其内院を併合し鳥羽帝建立後白河帝建立蓮華王院に千手
観世音千一躰を安置し元亨釈書に載たり）

傳聞霊夢駭天皇土木鳩工鴨水傍
法子髑髏除患重神山楊柳擇材良
二千餘體黄金佛三十三間碧瓦堂
試射今添降魔力爰疑聖壽更悠長

釋寂道


三間秋
銅脳
堂長三十
八筋夜
勁八千
華山画


三十三間堂
後堂射前
之所
東山画

夢もさめぬや三十三間堂　百川

昔々去年の芝矢の枝わかれ　又玄

右三十三間堂の裏縁側中々行ふ所の大矢數の盛觴ハ新熊野
観音寺の別當梅坊中々僧射術を好ミ八坂の青塚の的
場へ通ふ帰るさ此堂ハ態ひ射術の程を試ミ始まりとそ
甫々後連年天下列侯の藩士競ふ弓勢を試むこと
多くハ夏月長日の折を以て先堂下の芝生ハ芝射を練り終
堂上ハ登り百射或ハ千射まれなる日矢數等むかしの意ふ
任せ行ふ殊ハ大矢數ハ暮るゝを待て焚火聖朝
通矢檢證の役人立並ひ非常警固の火消役ハ纏ひ
振立ち甚様々嚴重なるその形勢を見ん
諸人群をなし雲霞の如くこゝ昇平武を鳴らしの
一大盛事ハ

早稲田大学図書館
011688995924